

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第241号

発行者
茨城県学校長会
会長 伴 敦夫
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

第2期 中期教育ビジョン（3年目）

特集 各部・各委員会の構想 新会員紹介



目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 平成三〇年度活動目標及び
第2期中期教育ビジョン……………2
- 会長挨拶……………4
- 平成三〇年度
今年度の活動の方向性……………4
- 特集
「各部・各委員会の構想」……………5
- 特別寄稿
「学校における働き方改革」……………6
- 課題「校長のリーダーシップで
教員の長時間勤務の解消を」……………8
- 市町村教育委員会と
学校長会……………9
- 提言一題……………10
- 経営研究「創意と活力に満ちた
学校経営」……………11
- 大会に参加して
「全連小・関プロ小」……………11
- 特集「新会員の抱負」……………14
- 再任会員名簿……………14

守谷型保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」
継承・継続・深化・発展
 守谷・御所ヶ丘中 小口 勝洋

守谷市は、平成二五年度より一貫教育がスタートし、六年目・第二期に入り、取組の質の向上と焦点化・新学習指導要領の具現化・市教育研究会との連携・協働を積極的に推進し、継承・継続・深化・発展に努めています。

御所ヶ丘中学校区では、インクルーシブ教育の構築を一貫教育の中核として取り組み、ユニバーサルデザイン・合理的配慮を意識した授業づくりに努めてきました。現在は、「学力向上」を中核として、「主体的・対話的で深い学びを創造し、「主体的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現できる児童・生徒」を目指して取り組んでいます。

一人一人が燦爛と輝く活力ある御所ヶ丘中学校を目指しています。

平成30年度茨城県学校長会活動目標及び第2期中期教育ビジョン(3か年活動計画)

1 基本方針とは

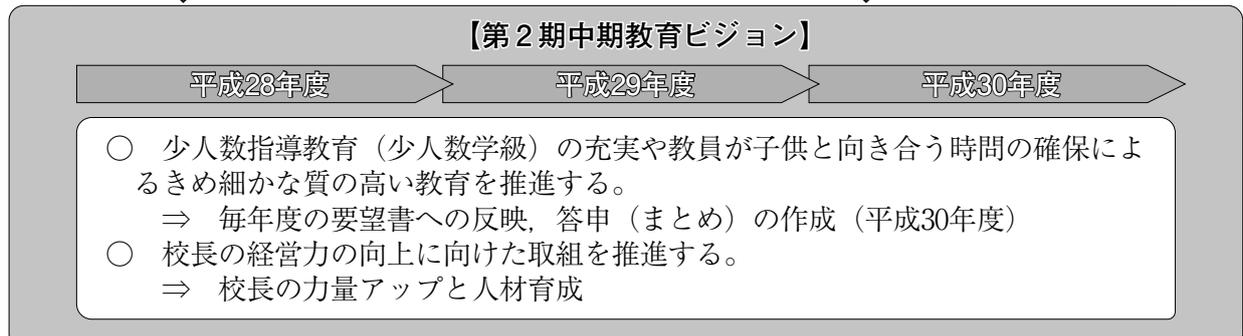
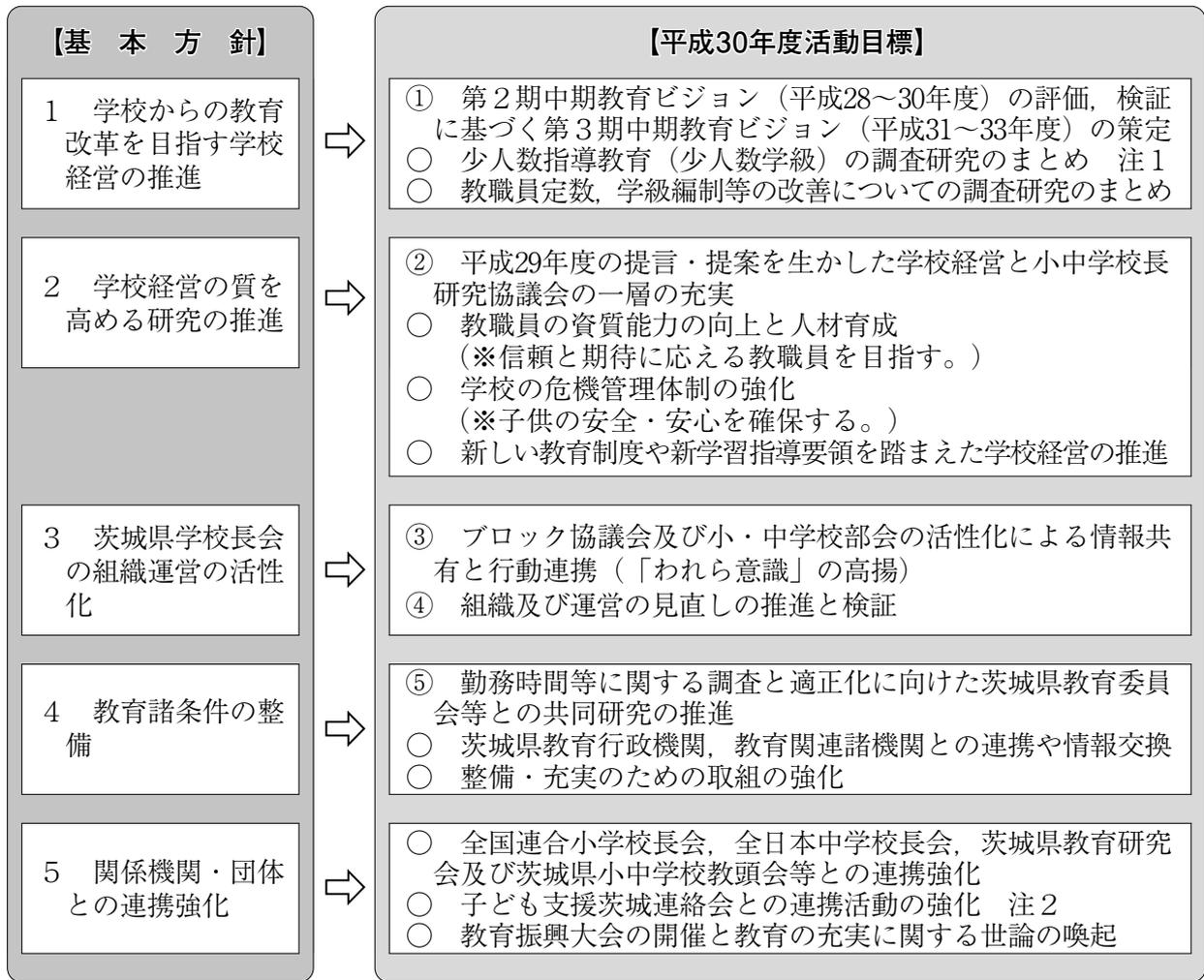
これまで取り組んできた精神と業績を継承し、茨城県学校長会の方向性を示したものです。

2 活動目標とは

基本方針を受けて平成30年度に取り組む目標です。①～⑤は重点となります。また、※印は今年度の「大会宣言」を受けたものです。

3 中期教育ビジョンとは

基本方針を受けて、中長期間にわたり活動し評価、検証を行うべき内容と、短期間の活動で評価、検証すべき内容があることに鑑み、3か年活動計画(H28～H30)として策定したものです。また、茨城県学校長会の各組織(専門委員会や支部学校長会)間での連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。



第2期中期教育ビジョンについて

〈中長期的な課題〉

- 少人数指導教育（少人数学級）の充実や教員が子供と向き合う時間の確保による、きめ細かな質の高い教育を推進する。

各年度に実施した調査をもとに、一学級35人以下の少人数指導教育（少人数学級）の効果を検証する。
また、勤務時間等の調査をもとに、適正化のための具体的な手立てを検討する。

⇒ 毎年度の要望書への反映、答申（まとめ）の作成（H30年度）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・調査Ⅲ「教育環境等に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」	経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」	経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」

【調査の視点】・茨城方式（小3～小6, 中1～中3）の評価 ・勤務実態 ・小学校における専科教員の配置

- 校長の経営力の向上に向けた取組を推進する。

自校の実情（教職員の現況、保護者や地域の環境など）を生かすとともに、課題を把握し、組織としての取組を推進するための実践的経営力を一層高める。また、関係機関との連携、研修会の在り方を検討する。

⇒ 校長の力量アップと人材育成

平成28年度	平成29年度	平成30年度
・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・茨城県教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携	・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・茨城県教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携	・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・茨城県教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携

【平成30年度の課題】

（小中別） ○教育課程・特色ある教育活動（カリキュラムマネジメント） ○学力向上 ○学校評価
 ○勤務時間の適正化 ○進路指導（キャリア教育） ○生徒指導 ○保幼小連携・接続
 （小中合同）○教員評価 ○スクールコンプライアンス ○教員研修・人材育成 ○小中一貫・連携
 ○学校体育・学校健康教育 ○特別支援教育（インクルーシブ教育） ○道徳教育
 ○教職員のメンタルヘルス ○防災・安全教育 ○部活動 ○家庭・地域との連携
 ○豊かな人間性を育むための体験活動

〈評価・検証〉

- 会員に茨城県学校長会で作成した要望や提言等を公表するとともに、各取組についての「アンケート調査」を実施し、評価・検証を行い改善に資する。

⇒ ① 小・中学校部会、ブロック、各専門委員会ごとに、内容や時期を検討し、必要に応じてアンケート調査を実施する。結果を踏まえ、今後の方向等を検討する。

② アンケートの回答率（100%）を目指し、「われら意識」の高揚を図る。

〈組織の見直し〉

平成28年度	平成29年度	平成30年度
・専門委員会の運営及び委員数の見直し Webページの専門委員会としての扱い 他委員会の運営及び委員数削減の検討	・Webページは委員数削減の上、特別委員会へ ・行財政と調査研究の統合の検討 ・法制と広報の委員数削減の検討	・行財政と調査研究は将来的な統合を視野に、新委員数で運営 ・法制と広報は新委員数で運営 ・次年度以降の効率的な運営の検討

注1)「少人数指導教育」とは、一学級35人以下の「少人数学級」及び特定の教科における「少人数指導」の両面での取組を指すものです。茨城県学校長会においては少人数学級について調査研究を推進するものです。

注2)「子ども支援茨城連絡会」とは、教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり、現在のところ、本県では茨P連、茨城県学校長会、茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。

新たなビジョンの策定

茨城県学校長会
会長 伴 敦夫



茨城県学校長会は、この二年間、第2期中期教育ビジョンに基づいて、「少人数指導教育（少人数学級）の充実」を活動目標の重点に取り組んでまいりました。このことは、今年度から県の少人数教育の対象が中学校三学年まで拡充されたことで、一定の成果を上げることができたものと受け止めています。

また、今年度は、来年度から三年間の「第3期中期教育ビジョンの策定」に取り組むこととなります。この三年間は、新学習指導要領の移行期間及び実施年度にあたる、教育の大きな変革の時期となります。新たな教育の方向性を見据えた基本方針及び具体的な活動目標を定めるとともに、会員一人一人の参画意識を高め、各組織が連携して活動できるようなビジョンづくりに努めていきたいと考えています。

今後、「学校からの教育改革」を合言葉に、茨城県学校長会としての取組が、各学校の質の高い学校経営につながるものとなるよう、運営に当たってまいります。

今年度の活動の方向性

平成三〇年度茨城県学校長会

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を十分に果たしながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた子供たちの育成に取り組む中、茨城県学校長会は、「理論も実践もある有言実行の教育専門家集団」として、中心的役割を担っていく組織としての自覚のもと活動を推進していく。

学校において、私たち校長は、トップリーダーとして明確なビジョンを示し、具体的な実践と検証を重ねながら、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければなりません。

茨城県学校長会は、教育基本法等を踏まえ、先達の築かれた精神と業績を継承し、英知と情熱を結集して、基本方針と第2期中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努めます。

【今年度の重点】

一 第2期中期教育ビジョン（平成二八〜三〇年度）の評価、検証に基づく第3期中期教育ビジョン（平成三一〜三三年度）の策定

第2期中期教育ビジョンの最終年度となる今年度は、その評価と検証を行うとともに、来年

度以降三年間の第3期中期教育ビジョンの策定に努める。この二年間、第2期中期教育ビジョンの柱として取り組んできた少人数指導教育（少人数学級）の充実に向けた調査研究は、今年度から、県の少人数教育の対象が中学校三学年まで拡充となったことで、一定の成果を挙げることができたものと受け止めているが、改めてその学力向上及び生徒指導上の成果等を検証していきたい。

また、第3期中期教育ビジョンの策定にあたっては、新学習指導要領の移行期間及び実施年度にあたる教育の大きな変革期となることを踏まえ、新たな教育の方向性を見据えた茨城県学校長会としての基本方針及び具体的な活動目標を定めていく。

二 平成二九年度の提言・提案を生かした学校経営と小中学校長研究協議会の一層の充実

平成二五年度から実施しているワークショップ型の研修「小中学校長研究協議会」を、分科会テーマの改善等を図りつつ、今年度も同時期に実施する。昨年度の後アンケートの結果、「会員相互の情報共有・連携」について九九・三%の会員が「充実した」と回答するとともに、「われら意識」につい

ても九八・六%の会員からその高まりを認識できたとの回答が得られた。協議内容等をもとに四つの視点からまとめられた提言・提案は、今年度、私たち校長が経営力向上に向けて県内すべての学校において取り組むべき努力目標であり、各教育行政機関等への要望・提案につながるものである。

三 ブロック協議会及び小・中学校部会の活性化による情報共有と行動連携（「われら意識」の高揚）

各ブロックにおいては、茨城県学校長会の活動目標及び中期教育ビジョンと連動を図った取組が積極的に進められ、研修会の充実につながっている。ブロックの課題に応じた研究協議に加え、各教育事務所との連携のもと、ブロックの状況に応じた情報共有と課題解決に向けた有意義な研究協議が行われている。また、新学習指導要領の実施に向けた取組においては、小中学校ならではの課題も多く、小中学校部会の充実は今後益々求められるものである。各ブロック、各部会における協議内容の共有を一層推進し、茨城県学校長会との行動連携を図っていく。

四 組織及び運営の見直しの推進と検証

学校の統廃合等により会員数が減少し、郡市の会員数の不均衡が生じてきており、茨城県学校長会の運営や組織の在り方に

ついて、具体的な見直しが必要となってきた。平成二九年度の検討により、今年度の専門委員会の人数的見直しを行ったが、今後も各郡市の負担等も考慮しつつ、実質的な運営を担保できるように、必要な工夫を加えていく。平成三一年度に向けて検討・見直しを継続し、茨城県学校長会の効率的な運営をめざす。

五 勤務時間等に関する調査と適正化に向けた茨城県教育委員会等との共同研究の推進

昨年度は勤務時間に関する調査を第2期中期教育ビジョンの重点調査に位置付け、全県から小中学校各四〇校を抽出し、年次別に調査を行った。その結果、小中学校とも九六%の教員が多忙感を訴え、勤務時間の適正化に向けた対応が急務であることを客観的な数値からも読み取ることができた。茨城県学校長会としては、昨年度のデータをもとに、今年度も継続して調査を行い、現状把握に努めていく。また、具体的な改善策等については、各学校での校長のリーダーシップはもちろんであるが、茨城県教育委員会等との共同研究を一層進めることで、着実な改善へとつながっていきたい。本年度も、茨城県学校長会の組織に「勤務時間等の適正化に向けたプロジェクト」を位置付け、果たすべき役割を明らかにしつつ、総合的な取組の充実に向けリーダーシップを発揮していく。

各部・各委員会の構想

小学校部会



学校変革の旗手として

部会長 鬼澤 真 寿
(水戸・三の丸小)

新学習指導要領の移行措置に取り組みつつ、平成三二年度完全実施に向けた準備、保幼小接続や小中一貫教育の推進、働き方改革など、課題山積で平成三〇年度が始まりました。

茨城県学校長会小学校部会としても、それらの課題としっかりと向き合い、一つ一つ解決していく必要に迫られています。どれ一つとして、先送りにすることはできません。

五月の「茨城県学校長会総会」の折に、諸先輩方から「元気で楽しい学校を」というエールを贈っていただきました。そのエールに応えるべく、課題解決に取り組み、子供たちが、保護者地域が、そして教職員が、光り輝く学校づくりを推進するためには、学校長自身が「われら意識」のもと、衆知を集めて、元気に楽しく学校経営に取り組

んでいくことが、必要不可欠です。そこに学校長会、小学校部会の存在意義があります。

まずは、喫緊の課題として、働き方改革を優先して進めなければなりません。教員採用試験志願者の減少・講師不足は、学校の存亡にかかわる重要な課題になりつつあります。学校現場のブラックイメージを払拭し、やりがいのある職種としてのステータスを回復させなければ、次の担い手を確保することができません。自治体によつては、教員の志願者増と優秀な教員確保のために、初任給の増額を試みる施策もでてきました。しかしながら、待遇改善以上に、負担感や不安など、時間外勤務時間増とともに心的要因による現象であるとも言われています。働き方改革は、現状分析に留まることなく、具体的な行動目

中学校部会



二つの重点的な取組

部会長 伴 敦 夫
(水戸・第一中)

標と実践が伴わなければ、何の効力も発揮できません。何をどう変えていくか、小学校の現状を踏まえ、小学校部会として、具体的な提案を掲げて、学校現場の変容を示しながら、検証を重ねていく必要があります。平成二九年一二月末に中教審から出された「新しい時代の教

多くの都道府県では、小学校長会と中学校長会が分かれて組織されているのに対し、茨城県学校長会は、小中学校、義務教育学校の校長が一緒になって会を組織している。これによつて、小中学校の連携の強化が図られ、幅広い情報交換や協議ができるという強みが生まれている。中学校部会の運営にあたっては、このことを踏まえて、小学校部会との一体感を大切にしていきたいと考える。

さて、五月下旬に行われた全

育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」の基本的な考え及び検討の視点を十分に理解し、本部会自らが、改革の先頭に立つて歩むべき時を迎えています。

日本中学校長会総会のレセプションにおいて、文部科学省の方から、今年度の取組の重点として次の二点が挙げられ、全国の学校の取組に期待しているとの話があった。

▽新学習指導要領の着実な実施に向けた準備

▽教職員の働き方改革

新学習指導要領の移行期間となった今年度は、校長のリーダーシップの下、「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」などについて

具体的な実践を進めていかなければならない。特に、『特別の教科「道徳」』については、来年度からの実施に向けて、「考え、議論する道徳」への授業実践が求められている。これまでの道徳とどこがどう変わったのか、評価はどう進めるのか、全教員がきちんと理解して説明できるようにするとともに、授業を通してそれを示すことができるよう、校内研修等の充実を図っていかねばならない。

また、働き方改革については、校長の本気になって改善に取り組む姿勢が求められてきている。各学校においては、改めて今行っている仕事を見直し、行わなくてもよいと思われる仕事については、思い切って削減していくことも必要である。

改革を進めるにあたっては、教職員一人一人の勤務時間が正確に把握されていないければ、その成否を問うことはできない。正確さを欠く教職員の自己申告による把握や土日に勤務した時間間が十分把握できない体制は、早急に改善する必要がある。

昨年度の本会の調査では、中学校教員の九六パーセントが多忙感を訴えていたが、勤務時間の適正化によって、その改善を図っていきたい。

特別寄稿



学校における働き方改革

教育庁学校教育部義務教育課

副参事 栗山賢司

教員は、「子供たちのために」という教育に対する熱い思いや責任感から、児童生徒にかかわるあらゆる業務を自らの仕事として取り組んできました。

そして、それらは学校や教員に対する多様な期待や、学習活動の充実に対する要請とも相まって、長時間勤務という問題となって現在表れてきています。

このような中、県では、昨年度「業務改善推進協議会」や「新たな運動部活動の在り方検討委員会」を設置し、今後の抜本的かつ具体的な改善策などについて検討を進めてきました。

その中で収集した学校での取組事例の中には、各学校で活用できる良好事例が数多くありますので、今後参考となるよう情報を発信してまいります。

また、県では、「学校業務アウトソーシング促進事業」において、業務の集約・定型化に取り組んでいます。この事業では、教員が個別に作成してきた学習指導案や教材等の集約、各種計画書や会計等の書類の形式・処

理方法の定型化などについて、モデル校の取組を通して成果を広めてまいります。

さらに、運動部活動については、中学校では週あたり二日以上、小学校では週あたり二日以上の休養日を設け、一日の活動時間は平日二時間程度、休日三時間程度とするなど、県としての方針を策定したところです。

さて、働き方改革を進める上で、教員の時間管理についての意識改革が必要であると考えています。教員は、日々子供たちのことを思い、時に寝食を忘れて仕事に没頭しますが、時間外手当が支給されないこともあって、時間管理についての意識が希薄になりがちです。管理職等の適切なマネジメントにより、時間管理の意識を高めていただくと思います。

また、業務改善を進める上では、削減や効率化を求めるだけでなく、教員一人一人の「やりがい」も大切にしていきたいと思っております。

例えば、行事準備のために、毎日夜遅くまで働いた結果、よ

い行事がもてたとします。この場合のように、忙しさを感じつつも、教育活動に充実感や達成感などが見出された場合には、多忙感をあまり感じないと考えられます。

一方で、このような働き方を続けた場合、疲労や心理的な負担を過度に蓄積して心身の健康を損なうことも考えられるため、行事の見直しという視点が必要となります。

しかし、多忙感を感じていない業務を見直すことにより、教員の使命感や情熱が失われることを懸念する声もあります。教員が教育に対するモチベーションを保ちつつ、勤務時間を意識し、限られた時間の中で業務を効率的に行うことのできる環境を確実に整備していくことが重要です。

働き方改革は、「仕事の量的削減」の問題だけでなく、「働くことの意味の改革」でもあるのです。

平成三二年度から順次導入される新たな学習指導要領の理念を確実に実現していくためにも、校長先生方のリーダーシップにより、児童生徒に必要な指導を継続的に行えるような勤務環境を整備していただきたいと思っております。

行 財 政



第2期中期教育ビジョンの具現化を目指して

委員長 沼田 祐一郎

本年度は、茨城県学校長会第2期中期教育ビジョン（三か年活動計画）の三年次に当たりま

す。

これを受けて、行財政委員会では、重点施策の「少人数指導教育（少人数学級）の充実のための調査研究」に継続して取り組むとともに、調査研究委員会と連携しながら、茨城県教育委員会への要望書を作成してまいります。六月に要望書作成のため

※今年度は、委員数が半減したため、郡市代表の委員は全員が小委員会のメンバーとなっております。

二 活動目標

第2期中期教育ビジョンについて、平成二九年度の成果と課題を踏まえて、調査・分析・検証を行い、県教育庁への要望につなげ、「学校からの教育改革」をより推進していく。

三 活動内容

(一) 教育課題解決のための諸施策に関する調査研究

① 少人数指導教育に関する調査研究と検証

② 教職員定数・教育環境等に関する調査研究と検証

③ 調査研究委員会等との組織間の連携・協働

また、重点施策の「組織及び運営の見直しの推進と検証」の一環として、従来から半減した委員数での運営に取り組み、今後の「行財政委員会と調査研究委員会との統合」に向けて検証を進めてまいります。

一 組織

委員長 沼田祐一郎（水戸署中）

副委員長 海野 隆（水戸野小）

同 深見 晋（水戸小）

幹 事 岩上 賀子（水戸小）

同 築瀬 浩幸（水戸小）

小委員代表 石田 進（笠岡小）

同 後藤 孝行（茨大倉小）

(二) 県への要望

① 要望書の作成と要望行動

② 義務教育課・行財政合同検討会の開催

(三) 調査研究委員会との統合を視野に入れた運営・検証及び次年度の活動計画の作成

法 制



「学校長必携（第三四集）」の発行へ向けて

委員長 小野瀬 繁子

本委員会は、学校運営上の法的問題に関する調査研究を行い、教職員の法制意識の向上と円滑な学校運営に資することを目的としています。

本年度は主に、「学校長必携（第三四集）」の発行に向けて活動します。

また、「学校運営必携一二訂版」発行へ向け、「学校運営必携一一訂版」の記載内容の見直しを行います。

併せて、県教頭会との連携をさらに進め、法制に関する合同研修会を実施します。

一 組織

- 委員長 小野瀬繁子(永・第三中)
- 副委員長 小泉 隆(百・富小)
- 同 横田 裕(坂・長小)
- 同 石塚 昌義(永・中基小)
- 幹 事 中村 宏(郡・昭小)

- 同 小委員 埜 次男(常・緒小)
- 同 滝 人司(高・松岡小)
- 同 横田 清子(鹿・鉢小)
- 同 阿部 繁(取・久賀小)
- 同 廣澤 淳子(結・山出小)

二 活動内容

- (一)「学校長必携（第三四集）」

三 活動計画

- (一)委員会(五月・二月)
 - ・組織づくり・活動内容及び市施設計画の検討
 - ・事業反省・次年度の活動計画の検討
- (二)ブロック別委員研修会
 - ・学校運営上の課題とその回答の検討

調査研究



第2期中期教育ビジョン達成に寄与する調査活動

委員長 佐藤 隆

本委員会は、教育における今日的課題について各学校の調査を行うことにより現状を把握し、県学校長会が課題解決に向けて提言・活動等を行うための資料として調査結果を提供することを主な目的として活動しています。各調査の結果は、各校の経営や業務の改善に生かせるように還元します。

また、各学校の特色ある教育活動を調査し、互いに参考にできるように結果を公表し、各校の教育活動や研究の改善、活性化の一助としていただく活動も行っています。

一 組織

- 委員長 佐藤 隆(永・梅原小)

二 活動内容

- (一)第2期中期教育ビジョンの重点目標である「教員が子供と向き合う時間の確保」に向けた勤務実態の調査(三年目)の実施・分析及び基礎資料の作成
- ・六月に小・中各四〇校計

広 報



会員相互の交流の場に

委員長 長谷川 聡

- 八〇校を抽出して実施
- (二)特色ある教育活動の調査とwebページへの掲載
- (三)勤務実態に関する調査の継続実施と分析・考察
 - ・十月における超過勤務時間数等の調査
- (四)全連小・全日中の各種調査への協力等
 - ・調査依頼校の選定
 - ・調査用紙等の集約と報告
 - ・研究校便覧掲載校の推薦
 - ・各種調査へのご協力をお願いいたします。

広報委員会は、会員相互の情報共有化を図るとともに、学校現場で直面している課題の解決に役立つ会報の作成に努めてまいります。

一 組織

- 委員長 長谷川 聡(永・鯉淵小)
- 副委員長 久保智佳子(永・笠原小)
- 同 猪野 睦美(那・菅谷小)
- 幹 事 和田 雅彦(永・千波小)
- 同 猿田美弥子(栗・七奈小)
- 校正委員 春原 孝政(永・榑小)
- 小委員 安島 孝博(ひ・中根小)

- 同 原口 次夫(久・生瀬小)
- 同 佐藤 恵子(栗・世中)
- 同 菊地恵美子(北・関南小)
- 同 林 雄一(神・横瀬小)
- 同 山田真奈美(潮・延方小)
- 同 山田 仁巳(守・大野小)
- 同 島田 陽一(か・志筑小)

- (一)二八年度の活動の方向
- (二)二四二号(七月)
- (三)発行計画及び内容

- 「二八年度の活動の方向、各部、各委員会の構想、新入会員紹介」
- (二)二四二号(十一月)
- (三)二四三号(二月)

「危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度に備えて」

課題



校長のリーダーシップで
教員の長時間勤務の解消を

学校長会副会長 鈴木 悟
(下妻・下妻中)

今年度から新学習指導要領の移行期間に入った。特に小学校五、六年生の「外国語」や「特別の教科 道徳」の学習評価などは、各校で具体的な取組が始まっているところである。

また一方では、教員の長時間勤務が問題となり、「学校における働き方改革に関する緊急対策」が文科省より示された。平成二八年度教員勤務実態調査(文科省)では、教員の勤務時間は十年前と比べて持ち帰り業務時間は若干減ってはいるものの、勤務時間は小中とも大幅に増加している。特に、中学校では部活動に対する負担が大きいことが分かった。五月には、県

から「運動部活動の運営方針」が出され、各校ともこれをもとに自校のマニュアルを見直すことになった。

学校は、このような新学習指導要領への対応と同時に、教員の長時間勤務の解消のための思い切った対策を進めていかなければならない。

本校の運動部活動の方針につ

いては、昨年度から市中体連として市内三中学校で同じような内容で取り組んできた。今回の方針を受け、若干の見直しを図り、市内統一で顧問の負担軽減を進めていくことにしている。

勤務時間の管理については、本校では、「バーコード」による在校時間記録・集計システムを今年度導入した。昨年度まではタイムカードによる管理であったが、カードを作成したり、集計作業をしたりする教頭の業務の削減にもつながった。出勤簿と一緒に置くことで、教員のタイムマネジメントにも役立つている。

また六月から「留守番電話」が試行で導入された。平日の夜間と休日は留守番電話での対応にしたが、保護者からの苦情の電話は今のところない。ひと月で留守番電話に記録された内容はわずか一件だけであり、導入前に心配していたほどの問題は起こっていない。

しかし、勤務時間を管理したり、電話対応を制限したりする

だけでは、教員の長時間勤務の解消にはならない。これまで行ってきた業務を思い切った削減したり、整理したりして業務自体を減らす努力をすることが重要である。

例えば、学校から発信している「学校だより」をはじめ、各種様々な「〇〇だより」は、担当者にとつての負担となっている。廃止できるものは何か、複数のものを一つに集約できないか。また、学級担任が毎日児童生徒に課している日記や生活の記録、さらに家庭学習などについては確認を隔日にしたたり、担任が確認したりすることで負担を軽くすることができないだろうか。

これまで学校業務は増える一方であった。当然のように勤務時間も長くなった。中学校の部活動を含め、教員の働き方改革が話題になっているこの時をチャンスと受け止め、校長の強いリーダーシップで思い切った業務の見直し削減を行い、本来やるべき新学習指導要領への対応や教材研究に教員の力が注げるようにしなければならぬ。さらに、これからの教育を担う教員を育てるために、魅力のある学校を創り上げる必要がある。



総会の様子

市町村教育委員会と学校長会

結城市 結城市教育委員会 との連携

結城・結城中
渡辺 昭登

結城市の校長会は、小学校九校、中学校三校、計一二校の校長で構成される。本会は、結城市教育の基本目標「未来を担う子どもと地域を支える市民を育む」、そして、市学校教育の基本方向「信頼関係を基盤とした学校教育の実践」知・徳・体のバランスのとれた社会人の基礎を養う」を受け以下五つの課題を柱として取り組んでいる。

- 創意工夫を生かした特色ある学校経営の実践
- 自主性・自立性を育む教育の推進
- 時代の変化やグローバル社会に対応できる教育の推進
- 地域に信頼される魅力ある学校づくり
- 教職員の意識の改革と資質の向上を図る研修の推進

校長会は、毎月定例研修会を設定し、課題に即した提案校発表、協議する相互研修を行っている。ここでは、教育長、指導

課長から市・県の教育的課題や現状の説明、指導・助言をいただくことにより、教育実践にかなげられるようにしている。

結城市は、教育委員会、管理職（校長・教頭）、教務主任等の合同研修会を年間三回行う。

〔第一回〕四月一三日（金）
教育委員会指導課・校長・教頭が参加し、平成三〇年度の学校経営について、各校グラウンドデザインを基に発表した。

〔第二回〕八月二日（木）
県西教育事務所の先生方を講師に招き、教育委員会指導課・校長・教頭・教務主任等が一期の実践発表・協議を行う。

〔第三回〕一月三〇日（水）
教育委員会指導課の先生方を講師に招き、校長・教頭・教務主任等が、本年度の反省と次年度の課題について研修する。

以上のように、教育委員会と校長会が核となり、教頭会や教務主任会を巻き込みながら、スクールリーダーの育成を進めているのが結城市の特色である。

また、各学校から教育委員会への「報・連・相・確」、教育委員会からの情報提供や指導も密である。特に、各校で行われ

る研修会等は、教育委員会と校長会の連携が図られ、幅広く研修を受けられる体制が整っている。さらに、適応指導教室「フレンドゆうの木」においては、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解消に向けて、教育委員会の適切な指導の下、SWとの連携が図られ、学校や家庭への支援が行われている。

さらに、部活動指導改善に向けて、教育委員会のリードにより、部活動運営方針や外部指導者の活用について共通理解が図られ、研修会も実施していく予定である。今後も、教育委員会との連携をさらに深め、児童生徒の健全な育成を目指して、学校経営に取り組んでいきたい。

久慈郡

笑顔輝く大子町に

久慈・大子西中
鈴木 弘子

大子町の学校長会は、小学校七校、中学校四校、計一一校で構成されている。町の教育目標は「ふるさと大子を愛し、賢

く豊かに、遅く生きる子の育成」である。その目標の下、平成三〇年度町の教育ブランドデザインと学校長会の重点目標のキーワードは「笑顔」である。児童生徒、教職員、保護者の笑顔輝く学校経営を目指し、教育委員会と連携して次のような取り組みをしている。

【郷土教育「大子学」】

故元教育長都筑積先生の「ふるさと大子を愛する子を育てたい」という熱い想いで平成二七年に「大子学のすすめ」第一版が刊行された。九年間の義務教育の中で、各学年六時間の郷土教育を位置つけた。そして昨年度、学校長会代表が編集委員長を務め教員と町の有識者を編集員として、ワークシートの充実を図った第二版を作成した。グローバルに考えローカルに行動できる児童・生徒の育成を目指している。

【筑波大・日体大等との連携】

○筑波大との連携事業
平成二十一年度から、日本の学校教育研修の中核を為している筑波大学との連携事業を行っている。主な内容は次の通りである。

一 教職員に関わる事業

教職員の「教師力」向上のために筑波大学教授等を講師として各種の研修を実施している。

二 児童・生徒に関わる事業

筑波大学教授等を講師として各種の公開授業や体験活動を実施するとともに、筑波大学学生との交流を図っている。

三 大学での研究に関わる事業

筑波大学で行われる研究に際し、教育委員会と連携し大学生の学びの場としてのニーズに込めている。

○日体大との連携事業

今年度から、三つの事業に取り組み予定である。

- ・小四・五対象ダンス講習
- ・小六・中一・二対象講演会
- ・希望者対象日体大宿泊体験

【若手教員の育成】

大子町は、県に先駆けて町若手教員研修を平成二〇年度から行ってきた。これは、地理的条件から人事交流がなかなかスムーズに進まない本町の苦しい状況があるからである。毎年、たくさんの方が入っており、一〜三年目の教諭を対象に、教育委員会と校長会が共催で研修会を行っている。今年度は、その対象者が二二名おり、七班に分けて班別研修をしている。班内で互いに授業公開し、町の教科指導員となる教員がその指導にあたっている。指導員にとっても自己研修の場となり、町全体が若手教員のやる気で活気づいている。

提言二題

PTA活動とコミュニケーション



高萩市PTA
連絡協議会会長
手塚 啓之

本年度、高萩市PTA連絡協議会会長に就任しました手塚啓之と申します。昨年度より務めまして二年目となります。

日頃より、校長先生をはじめ各学校関係者の皆様方におかれましては、子供たちの教育に熱心に関わっていただき、更に私たち連絡協議会の活動にご理解とご協力を頂き、この場をお借りしまして深く感謝と御礼を申し上げます。

高萩市PTA連絡協議会は、小学校四校、中学校三校の計七校で構成されており、会員数は一七四九名と比較的小規模な組織です。

私がPTA活動に関わるようになったのは、長男が中学校に入学した際に校外指導委員が回ってきまして、先生達と一緒に生徒指導や立哨活動を行ったのがきっかけです。当時の生徒

の中には、やんちゃな子もいましたが、話してみると素直で人懐っこい子ばかりで大変ではありましたが、やりがいのある活動でした。

長男が卒業を迎える頃、小学校でPTA会長をしていた妻が妊娠し、会長職を務まらないという理由で私が会長を務めることとなりました。(自業自得ですが…)

これまで小学校のPTA活動に何一つかかわったことのない状況での会長、しかも男性の役員は私一人、とてつもない孤立感を抱きつつ、なんとか一年間を務めあげられたのも役員や先生方とのコミュニケーションを第一に考え、様々な意見交換を行ってきたからかなと思います。

昨年、市P連の会長が本校に輪番で対応しなくてはならないと分かった時も市内の小中学校の会長たちと協力すれば何とかこなせると自分に言い聞かせ、指導者研修会等の行事を進めていくことができました。

PTA活動を通じて感じたことは、学校運営は先生方に任せただけでなく、私たち親も協力しなくては成立しないことだと思えます。「子供たちが安心して学校生活を送れること」、そ

のことを念頭にPTA活動とは存在していると考えます。少子化の影響で会員数は年々減少傾向の中、PTA活動を縮小していくことを検討する必要も出てくることと思いますが、誰のための活動なのかを常に心の中にもち、多くの人に理解し合える関係をもてるよう、自分のコミュニケーション能力をPTA活動を通じて高めていきたいと考えます。

意識変革のPTAへ



神栖市PTA
連絡協議会会長
安藤 和幸

平成三〇年度神栖市PTA連絡協議会会長を仰せつかることとなりました安藤和幸と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。また校長先生方を始めといたします教育関係者の皆様には子供たちの成長はもちろんPTA活動に対するご理解とご協力をいただきありがとうございます。近年私の周りでもPTAに対して時間がないか

らできないとか大変だからできないなど様々な理由で断る方が多く見受けられます。しかし時間を作ることにより何をするか、またいかに有効に使うかわないかはその人自身の才覚でありせつから時間を有意義に使っていたらいいです。意識が変われば自分自身も大きく変わり、それを見ている子供たちや周りの人や地域も変わってきます。また、大変だからというのも考え方によっては自分を大きく変えるチャンスと思えば、自分たちの活動から学校のため、家庭のため、地域のためにと考えることができるのではないのでしょうか。また今年度はせつかくPTAをやっているんだから楽しもうと考えています。楽しさは誰かが与えてくれるものではなく自分自身が考えて行動を起こしていかなければなりません。楽しさでも楽しくて面白いでなく、私は楽しい!! 決意だと考えています。「楽しい」とは自分の果たす役割を一生懸命に遂行し、与えられた使命感や責任感を達成して初めて感じる充実感ある心地よさを感じることではないかと考えています。結構役割を与えるとみんなやってくれた、自分にも出来ることがあるんだ、声をかけ

てもらわなかったらこんな経験できなかった、そしてPTAの事業に親子で参加した時などは子供たちと一緒に楽しくたし企画に自分も参加できて勉強になりましたなど、私もPTAを長年やっており様々な意見を聞きました。きつと声がかからなかったり、否定的な考えをもったりとその先の一步を踏み出すことができなかったためかもしれません。そのためには今できることはPTAへの参加の声かけであり各PTA会員の意識をちよつと変えて楽しんでみようという思いが必要だと感じます。まずは出来ない理由を考えるのではなく、出来るためにどうするか、出られるためにどうするか考えていただく努力をすることではないでしょうか。それでもダメなら次に何が出来るか考え、物事を肯定的に考えてみるのが大事だと考えます。最後に今年一年与えられた職に感謝しながら子供たちの教育を学校任せでなく子供たちを取り巻く社会環境すべての相互関係、つまり地域を含めた家庭・学校といった地域が三位一体となって子供たちを育てていき元気で笑顔あふれる、安心安全な地域の未来への一助となるよう努めてまいります。



創意と活力に満ちた 学校経営

確かな学力を育む
授業づくりを目指して
ばら野学園

那珂・第一中
佐藤 知光

本校は、那珂市のほぼ中央に位置し、創立五七周年を迎える歴史と伝統のある学校である。二校の小学校と連携・協力し合い、自らの人生を切り拓きながら、たくましく前進していく生徒の育成を目指している。その具現化を図るための一つとして、全教科にわたり主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる。

一 実態を適切に把握する

学力向上や授業改善を確実に遂行していくためには、各種調査結果やデータ等から学校や生徒の強み・弱みを把握することが大切である。そこで、学校評価の結果や全校生徒を対象とした学習に関するアンケートを実施することで、学習指導に係るRPDCAサイクルを確立し、生徒の学力の向上を図っている。

二 組織的・計画的な教育活動

教育活動の質の向上を図るた

めには、校内の組織及び各種会議の役割分担や相互関係を明確に決め、既存の組織を整備、補強することが大切である。そこで、次の策を講じている。

(一) 全職員による相互授業参観の設定

全職員が、模擬授業や相互授業参観を行うことで、積極的な授業実践の場や授業力を磨き合う場となる。そうすることで、授業改善への当事者意識の高揚や教職員同士の共通理解が図られる。

(二) 授業改善のための手立ての工夫

教科の特性を考えながら、具体的な手立てについて、教員主任を中心に検討する場を設定し、教科ごとの手立てを作成する。各教科でどのように授業改善をしていくのか、その目標と具体的な方法について検討しなれない。全職員が教科等横断的な視点で内容や方法について捉えることで、学校組織全体としての授業改善へ意識の高揚が図られている。

(三) 指導案作成のための教科検討会を設定する

学習指導の在り方を見直したり、指導の充実を図ったりするために、RPDCAサイクルを活用し、組織として改善していくことが大切である。そこで、指導案の素案が作成された段階で、教科部員会を開き、指導案に書かれた内容が授業改善として効果的なのか、検討会を通して確認している。職員同士の協働意識が高まり、改善の方向性の具体化・明確化と気付きの共有化が図られ、指導力Ⅱ授業力Ⅱ専門力の向上につながっている。

三 具体的な取組

(一) 主体的に課題解決に向かうための取組

ア 前時を想起させる導入場面の工夫↓「既習」と「未習」をつなげる効果

イ 単元学習計画表やルーブリックの活用↓「達成目標」と「学習の見通し」の明確化

ウ 課題との出合わせ方の工夫↓学習意欲を高める提示方法やICTの効果的な活用へ

エ 必要感や系統性のある課題設定↓学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」の涵養

(二) 考えを伝え合うための取組

ア グループ形態の工夫↓コの字型・二人組・三々五人組の効果的な設計

イ ジグソー型学習の導入↓小グループ間の交流による多様な他者との対話

四 まとめ

取組を積み重ねる中で、学びの見通しを立て、粘り強く課題解決活動に取り組む姿や、根拠や理由を付け加えながら意見や考えを自分なりの言葉で表現する生徒の姿が多く見られるよう



になってきている。

今後、教育目標の具現化のために、全職員がチームとして一体となり、教育活動に邁進していきたい。

「楽しい」から伸びる
児童の育成を目指して

北茨城・関南小
菊地 恵美子

本校は、北茨城市の北部に位置し、西に阿武隈の山々を、東に太平洋を望み、周辺に田畑が広がる自然豊かな地域に立地している。

創立一四五年の歴史と伝統があり、児童数は一一四名、教職員数一二名の小規模校である。保護者・地域共に学校の教育活動に大変協力的である。

一人一人が主人公になれる学校を目指し、「[せ]積極的に活動しよう」「[き]きちんと整えよう」「[な]なかよく助け合おう」「[み]みんなで心を一つにがんばろう」を合言葉に、児童の主体性を育んでいる。

特に、三つのプロジェクトをもとに、目指す児童像「よく考える子」「心豊かな子」「たくましい子」の具現化に努めている。それぞれのプロジェクトの中で、今年度特に力を入れている教育活動を紹介する。

一 読書活動の推進（まなび充実・プロジェクト）

読解力や語彙力を高めるため、もの見方・考え方を深めるため、情緒を養うために読書は大変有効な手立てと考え、読書活動に力を入れている。

図書館教育主任が市職の図書事務員と連携し、本を手にとって読みたくなるような学校図書館の環境づくり、様々な読書活動を行い、読書好きを増やしている。

○親子読書・とっておきの一冊の紹介カード作成

○梅雨期の図書館内での読書クイズ「雨の日は名探偵」

○図書館を暗くしての「怖い話」の読み聞かせ

○図書の分類番号〇〇九を全種類読んだ児童への認定カード贈呈「図書館マスタートーを目指せ」

二 体験・栽培活動の充実（こころ充実・プロジェクト）

秋に行われる運動会は、学校・PTA・公民館の三者合同での開催となり、関南ふれあい祭り（三世代交流）は、子供会連合会・青少年健全育成関南支部も加わり、五者合同での開催となる。地域の方々の協力のもと、充実した活動となっている。その地域の教育力を活用し、栽培活動を通して、自然や地域・

人を愛する心、感謝する心を育てている。

学校近くの畑を借用し、地域で農業を営む方を講師として招き、低学年はさつまいも、中学年は大豆、高学年は大根の栽培を行う。土を耕し、除草を行い、害虫駆除の方法を考え、アドバイスをもらいながら実践して育てていく。収穫後は、それぞれPTAや地域の方の協力を得て調理を行い、大地の恵みに感謝しながら食する。活動する中で、主体的を育んでいる。

三 ランニングタイムの実施（からだ充実・プロジェクト）

本校の職員は、休み時間に率先して外に出て児童と一緒に遊び、よりよい人間関係を醸成すると共に体力づくりに力を入れている。体を動かすことが好きな児童が多いので、年間を通して各種運動に親しむ機会を設け、運動を通して基本的な生活習慣やルールを守る心も育てている。

週二回のランニングタイムでは、長距離走が苦手な児童も楽しく走れるように、ペース走を導入している。一周一五〇Mと二〇〇Mのコースを設定し、全校児童をシャトルランの回数によって四段階のグループに分け、各グループの体力に応じたタイムを設定し、集団で走れるように練習している。練習が進む中でグループの自主性が育ち、自分たちで目標を設定し、全員でそれを達成しようと努力する。励まし合いながら達成する中で、チームで取り組むよさや、長距離走の楽しさが実感できる。これによって、体力が向上するだけでなく、児童同士の温かな交流が生まれ、心も成長していく。

「楽しい」からこそ主体的に活動でき、だからこそ成長できる。今後も、学校・家庭・地域が手を携えて、様々な活動を支援していきたい。

地域の教育資源を生かした教育活動の工夫

北相馬・文間小
戸張 深雪

本校は、利根町の北東部に位置し、田園風景の中、学区の南側を利根川が流れる、水と緑に囲まれた自然豊かな地域である。

平成二〇年に旧文間小と東文間小の統合により、現在の文間小学校となり、今年で一一年目を迎える。

地域には、県指定無形民俗文化財「利根地固め唄」を継承する保存会の方々、自然に触れ合うことができる環境づくりを目指した「里山の会」や利根町で進めている「一学校一田んぼ事業」を推進する支援員の方々等があり、教育活動に対して大変協力的である。このように恵まれた地域の環境を活かし、地域に根ざした教育の推進を念頭において日々の教育実践にあたっている。

一 具体的な取組

(一) 「利根地固め唄」の継承

「地固め唄」の起源は江戸時代頃までさかのぼる。利根川堤防の補修工事の際、作業する人々たちによって歌われたのが始まりである。本校では四年生が総合的な学習の時間を利用して、地元「利根地

固め唄保存会」の協力を得て取り組んでいる。

この地域は利根川とともに発展してきた。そこで、「水とのたたかい」というテーマで次のように学習を進めている。

・利根町と水害について調べよう。

・「地固め唄」の歴史を調べよう。

・「地固め唄」に挑戦しよう。九月下旬頃から、九種類の唄の歌詞やリズム、振り付けを覚え、本校で開かれる「もんまつこまつり」で披露される。地固め唄に取り組むことは、歴史と文化の両方を子供



たちに伝承できる貴重な機会となつている。

(二)里山プロジェクト

本校の周りは田園地帯が広がり、黒メダカや数多くの野鳥を観察することができる。

しかし、児童の多くはこの環境を当たり前と感じ、豊かな環境に気付いていない。

そこで、ボランティアの方の指導のもと、三年生の総合的な学習の時間を活用して、黒メダカを卵から孵し、近くのピオトープへ放流している。

この活動を通して子供たちは、豊かな自然は、自分たちが守っていかねければ保てない。

・生命の神秘と大切さに気付くことができた。

(三)一学校一田んぼ事業

この事業は、「利根町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一環として実施されている。

児童が稲作から流通、試食まで年間を通じた農業体験をすることにより次のようなことをねらいとしている。

・働くことの苦勞と収穫の喜びを実感する。

・自然の恵みに感謝する心と生命を慈しむやさしい心を育成する。

昨年度は全校児童で田植えを行ったが、今年度は五年生

が取り組んでいる。JA竜ヶ崎わかき支店の方による苗の植え方指導のほか、多くの支援員や保護者ボランティアのご協力のもと貴重な体験を行っている。

二 終わりに

今後も教育資源を活かし、地域を大切にしようとする心を育てると共に、地域を担う人材の育成に努めていきたい。

心を耕し めあてに向けて 進んで努力する児童の育成

桜川・羽黒小 袖山 政佳

常よりも春べになれば桜川

波の花こそ間なく寄すらめ

平安時代の歌人紀貫之が詠んだ桜川の地に本校は位置している。

本年創立一四五周年を迎える歴史と伝統のある学校である。地場産業として古くから石

材業が盛んで、地域発展の礎となつてきた。国会議事堂をはじめとする全国の名だたる建造物にも桜川市の石材が使用されている。

さて、本校はどのような桜川の地に根ざした児童数二五三名の学校である。教育目標として「郷土を愛し 未来に向かつてたくましく生きる子どもの育成」を掲げ、教職員及び保護

者、地域ボランティアの方々「チーム羽黒」となつて教育活動を展開している。特にこのコラムでは地域と共にある「チーム羽黒」づくりの取りかかりの部分の実践について紙面をお借りしてご紹介したい。

一 本校の教育的課題

本校の児童の実態として、明るく素直であるが、自分で考えめあてに向かつて努力を続けるという自主性がまだまだ育っていない。

【徳】

次に、仲のよい友達同士では話を積極的に言うが、公では自分の思いや考えを相手に伝えることがやや苦手である。

【知】

最後に、体力面では平成二九年度に県の体力づくり優秀校の栄誉を受けた。児童は体を動かすことには興味・関心があるが目標を持って取り組む姿勢はまだ身に付いていない。

【体】

「心技一如」の言葉にもあるように心を耕しながら「めあて」に向かつて自分で努力しようとする態度を育成することが重点課題となつている。

二 まずは「何をやる組織」なのかを明確にして

本校ではまず組織改革から着手した。徳・知・体の重点課題解決に取り組むべくプロジェクト型の組織に改編した。「思いやりの心プロジェクト」「学ぶ

力プロジェクト」「たくましい体プロジェクト」がそれである。三人のプロジェクトリーダーを中心に各チームが「何をやる」組織なのかを明確にした。最初に重視したのが、熱心な教職員のエネルギーのベクトルを同じ方向にしようというコンセプトのもと学校のランドデザインを全教職員の思いや考えを取り入れたものに作り替えたことである。

作成のための会議を積み重ねるうちにお互いの思いを出し合い構想の練り上げが行われるようになった。この「何を」「どうする」のかという突っ込んだ話合いのプロセス自体が、教育活動の目指す方向付けと教職員のチームワークを生み出したように思われる。組織目標の具現化に向けた議論を通して教職員

全員が組織目標を意識し、我々意識も高まつてきたように思える。

また、保護者や地域ボランティアの方々には、PTA総会、ボランティア総会等の場で学校の方針を伝え、理解・協力を得られるように努めている。

三 一人一人が意気に感じる組織に！

組織には一人一人の参画意識が必要である。業務に向かう意気、生き甲斐、誰かの役に立っているという思い等一人一人の「やる気」に支えられているのが組織であり学校である。経営に参画する動機付けや刺激が如何に重要であるかが、何より目の前にいる子供たちの姿になつて見えるようになってきた

今日この頃である。



大会に参加して

第七〇回全連小総会・研修会に参加して

常総・絹西小 猪瀬 和男

第七〇回全国連合小学校長会総会・研修会が五月二三日、東京都港区ニッショーホールで開催され、茨城県の代議員として参加させていただいた。

種村明頼会長からは、新学習指導要領の完全実施に向け取り組み、働き方改革について教委と連携していくこと、社会に開かれた教育課程の理念のもとと教育活動や学校経営を改善していくことなど力強いあいさつがあった。

今年度の活動方針は

- 一 学校経営の充実
- 二 調査・研究活動の充実
- 三 「生きる力」の育成を目的とする教育課程の編成・実施・評価・改善
- 四 教職員の資質能力の向上
- 五 教職員の定数や処遇の改善

が掲げられ、これらの活動を推進するために、全国連合小学校長会としての凝集性を一層高め、組織の活性化を図り、都道府県単位の校長会との連携を一層密にして活動の充実に努めることが承認された。

宣言議決では、校長が自らの使命を自覚し、未来を見据え、

創意ある展望と計画のもと、確かな実行力を持つ校長会として、

昨年度の活動に、さらに専科教員の配置の促進、給特法の改正、プログラミング教育、デジタル教科書等のICTを活用した教育を推進するための環境整備、そして教員を志す優秀な人材の確保などが新たに加えられ、全一四の宣言項目の実現に全力を傾注することを、第七十回総会の総意をもって宣言された。

その後、ご来賓の方々よりご挨拶があり、文部科学省初等中等教育局主任視学官、清原洋一様からは教育は最重要課題であること、更に全連小顧問代表、向山行雄様からは初等教育のよさを再認識することなどが話された。

午後の研修会では文部科学省大臣官房審議官、白馬竜一郎様による演題「当面する初等教育



の諸問題」のご講演等があった。私たちが取り組んでいかなければならない教育課題を再確認し、盛会の中、総会・研修会は終わった。当日は本県の各地区からの代議員の先生方との情報交換等もでき、大変有意義な研修会となった。

第七〇回関プロ小長野大会に参加して

東茨城・大洗小 沢畑 好朗

第七〇回関東甲信越地区小学校長研究協議会が、六月七日、八日、長野市で開催された。本県からは鬼澤真寿校長先生を団長にしての参加であった。

第一日目の全体会では、本大会主題及び副主題を、「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」地域「自然・文化・人々の生き方に学び 豊かな発想力・創造性や人間性を

身に付け 自ら未来社会を拓いていく子どもの育成」とし、その趣旨説明等があり大会の幕開けとなった。

続いて、各都県から活動状況が端的に報告された。茨城県からは「学校からの教育改革」学校経営の質を高める研究の推進」等五つの柱で取り組んできたことが報告された。

記念講演は、JAXAシニアフェロー・ISAAS教授の川口淳一郎氏により、「はやぶさ式思考法」と題されて行われた。川口氏は、「二〇一〇年に小惑星「イトカワ」の微粒子を地球に持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーとしての経験から、幾多の困難を乗り越え成功させるに至った「思考（考え方）」について、冗談を交えながら楽しく語られた。

講演の中では「親方の背中を見て若者が育つ」「教育はコピー技術を教えるものではなく、アートであるべき」「才能は有限、努力は無限」「思いこみが人を盲目にする」「やれる理由を見つけ挑戦しない限り成果は得られない。」など、真髓をつくような名言がちりばめられ、教育の視点をもつても、多々参考となる内容であった。

第二日目には、二四の分散会に分かれての提案発表の後、熟議（長野県が取り組んでいるブレインストーミングとKJ法の特性を併せ持つ研究協議方式）と呼ばれる方式で話し合いが進められた。六名程度の小グループ

となり、各自の意見等を付箋に書き込み、それらを軸として意見を交わし合った。

豊かな人間性分科会の第八分散会に参加し、一時間二〇分の熟議によりまとめられた提言は、これまでの経験や現在の課題、学校の状況等を踏まえて自分達でまとめ上げただけに、心に深く刻まれるものとなった。

この二日間、県内外の校長先生方と積極的な情報交換ができ、大変有意義な研修となった。



第六九回全日本中学校長 総会に参加して

常陸太田・太田中 篠原 陽一

総会は、五月二十四日、二十五日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として開催された。

第一日目は、前年度役員表彰、議事が行われ、午後は文部科学省審議官による講演が行われた。

始めに、直田益明会長が二九年度の活動を総括し、全日中の活動として各地区校長会研究会の実施について、全日中教育ビジョンの推進について、東日本大震災支援委員会の活動について、日韓教育文化交流会の開催について、中学校教育七〇年記念第六八回全日本中学校長会研究協議会東京大会の開催について、国及び文部科学省関連事項として平成三〇年度文教関係立法・予算措置等要望書の提出及び教職員定数の更なる充実を

求める緊急要請活動について、学校における働き方改革に向けた意見についての報告がなされた。

祝辞に立った文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）白間竜一郎氏を始め三名のご来賓の方々からは力強い激励の言葉をいただいた。

議事は、平成二九年度の各部の会務報告、会計決算報告に続き、新会長に豊島区立千登世橋中学校の山本聖志校長を選出した。山本新会長からは、就任の挨拶として三点が述べられた。

一点目は、新学習指導要領にむけた円滑な取組、二点目は、学校における働き方改革の対応、三点目は、全日中教育ビジョンの推進であった。直田前会長の挨拶をはさみ、その後、三〇年度の活動方針、予算等が承認され総会の宣言・決議がなされた。

午後には、「当面する初等中等教育上の諸課題」ということで白間審議官の講演があった。内容は、教育再生実行会議のこと、新学習指導要領のこと、学校における働き方改革のこと、部活動指導員のこと、教育の情報化の推進について、子供の貧困対策の推進のこと、第三期教育振興基本計画のこと等今日の諸課題への対応のご講演であった。

第二日目の午前中は、文部科学省より文部科学省行政説明があった。

午後は、皇居特別参観があった。

「学校からの教育改革」の推進に向け、教育改革のうねりの中、校長としての使命感と連携の重要性を再認識した総会で

あった。



あった。

第七〇回関東甲信越地区中学校長 研究協議大会栃木大会に参加して

神栖・神栖四中 大槻 豊

第七〇回関東甲信越地区中学校長会研究協議大会栃木大会が六月一四日、一五日の両日に宇都宮市において開催された。本県からは、伴敦夫茨城県中学校長会会長を団長に五九名が参加した。

第一日は、栃木県総合文化センターにおいて開会式、全体協議会、記念講演が行われた。

開会式では、小池正巳実行委員長から「社会を生き抜く力に身に付け、未来を切り拓く人間

を育てる中学校教育」を全体協議議題に据え、「地域とつながり、未来に向かってともに歩み続ける人間を育てる中学校の創造」を研究の視点として本大会が開催されることが確認された。

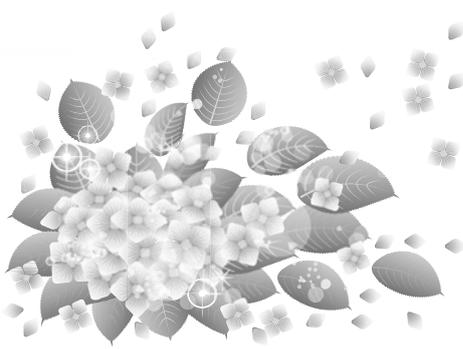
続く全体協議会では、全体協議議題の趣旨説明後、大会宣言・決議文が朗読された。その後、宇都宮市立若松原中学校山本伸夫校長から、宇都宮市が取り組んだ地域と連携した教育実践が報告された。地域連携教員の設置、社会体験活動やボランティア活動、地域協議会による活動など、多方面から行った地域への働きかけは大変参考になるものであった。

記念講演では、「Jリーグ百年構想の具現化を目指して」を演題に、株式会社Jリーグメディアプロモーション取締役の原博実氏の講演があった。サッカー日本代表として活躍し、Jリーグの発足に尽力した方だけに、Jリーグの理念、歴史、今後の構想等、いずれも興味深いものであった。また、その道の一級人としての信念や情熱には惹かれる点が多かった。ちょうど開幕したワールドカップへの新しい興味も抱かせてくれた。

第二日は、九つの分科会に分かれて研究協議が行われた。本県からは第六分科会（進路指

導）自己を高め、主体的に未来を切り拓く進路指導の充実」で、神栖市立波崎第四中学校片根孝典校長の提案があった。職場体験学習や企業訪問を含む一連のキャリア教育の取組と、生徒のキャリア意識を高めている幼保・小・中・高・大が連携した教育活動が紹介された。その後の協議では、神栖市立波崎第三中学校木之内英一校長の司会のもと深まりある話し合いが行われた。提案発表について参加者からは、「地の利を生かした素晴らしい教育」と絶賛の声が上がっていた。

この二日間は、工夫のある様々な取組を知ることができ、参加者間での交流もできて有意義な研修となった。



中 央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
那珂市
小美玉市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡

生きる力を育む創意と 活力に満ちた学校経営

新会員の抱負



水戸・上大野小
木村真理

新採時代の教え子が保護者として、保護者が地域住民として支えてくださっている学校に勤務できる幸せをかみしめています。豊かな自然と温かい地域の人々の中で、学年関係なく助け合い、小さな生き物を友として育つ五一名の子供たちの笑顔のため、精一杯努めていきます。



水戸・柳河小
柴田 均

ひばりの鳴き声に迎えられ、那珂川河畔の柳河小学校に赴任しました。

「よく学び 心やさしく たくましく 「けやき」のように伸びる 柳河の子」を目指し教職員一丸となって取り組んでまいります。

校庭の大きな「けやき」の木が応援してくれています。



水戸・酒門小
仲野健治

元気いっぱいの子供たち、熱意あふれる職員、協力的で温かい保護者や地域の皆様に支えられ、伝統ある酒門小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。



水戸・下大野小
海野 隆

創立二二六年目を迎える本校は、水戸の東部に位置し、グラウンドからは、ダイダラボウの巨像を望むことができます。本年度からは、水戸市小規模特認校としてICT教育を学校特色とし、市内全域からの入学が可能になりました。「子供が元気 先生が元気

地域を元気に」のローガンで笑顔あふれる学校を目指します。



水戸・赤塚小
田口廣巳

活気あふれる子供たち、熱心な先生方と学校生活を送ることができると感謝するとともに、責任の重さを感じております。本校教育目標である「知・徳・体の調和的な発達を図り、豊かに生きる力の育成」を目指し、全教職員の協働体制を構築し、保護者・地域と連携して、学校経営に全力で取り組みます。



水戸・稲荷一小
小林文雄

本校は、今年度創立二二〇周年を迎えます。このような節目の年に赴任できたことに、大きな喜びと責任の大きさを実感しております。「みんなでつくる楽しい学校」自分から始めよう

「を合言葉に、児童一人一人がキラリと輝くことのできる学校づくりに向け、職員と共に全力で取り組んでまいります。



水戸・稲荷二小
春原孝政

豊かな自然に囲まれ、歴史と伝統のある稲荷第二小学校に勤務できる喜びと、その責任の重さを実感しております。



水戸・大場小
猪野典子

創立一四五五年の歴史と伝統のある大場小学校で勤務できることの喜びとともにその職責の重さを実感しております。

明るく素直な九二人の子供たち、常に温かく見守ってくださる保護者や地域の皆さんと教職員がひとつになり、「笑顔あふれる大場小」を目指し、精一杯取り組んでまいります。



水戸・五中
芳尾信一郎

生徒会活動や学校行事を大切にし、生徒自らが日々生き生きと活動しています。教師同士の話し合いを重視し、互いのよさを生かした教育活動を展開しています。「時を守り・場を淨め・礼を尽くす」この三原則をいつも前面にして、教師と生徒で共に創る学校づくりに積極的に取り組んでいます。



水戸・国田義務教育学校
古橋賢治

本校は平成七年に県内初の施設一体型小中併設校として開校し、現在は施設内に幼稚園も併設する義務教育学校です。学校設立の原点と存在理念を大切に、これまで培ってきた特色ある一一年間の幼・小中一貫教育の充実を図るとともに、更に一歩進んだ「新しい画を描ける学校」を目指したいと思えます。



笠間・岩間三小
廣原幸子

二六三名の子供たちの明るく元気な歌声が響く岩間第三小学校に赴任し、喜びと職責の重さを実感しております。

熱心な教職員、活発なPTA活動を展開する保護者の方々、そして地域の皆様と共に「学ぶ喜びや感動いっぱいの魅力ある学校づくり」のために尽力してまいります。



笠間・稲田中
石井 健

歴史と伝統のある稲田中学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。稲田中学校は「二・三運動」という一日一個、三日で三個、地域や通学路のぐみを集めるボランティア活動を毎週行っており、今年で三〇年目を迎えます。今後も、地域と共にある学校づくりを進めてまいります。



笠間・友部二中
大関 修

生徒たちは礼儀正しく、元気にあいさつをしています。地域からも「あいさつのできる学校」が認知されています。学校名の通称「友二中(ともに)」に「共に」から、「チーム和(ワ)」を行う「ワ」をモチーフにして教育活動を行ってまいります。この精神を校内にとどめず、地域や家庭と共にある学校を目指します。



笠間・岩間中
菊地 浩

名峰愛宕山を仰ぐ歴史と伝統ある岩間中学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。「自主に生き 望み大きく 健康であれ」の校訓のもと、生徒の主体的・協働的な学びを支援し「岩中プライド」の確立を目指し、職員・保護者・地域の皆様の思いを集め、一丸となって教育活動に取り組んでいきます。



ひたちなか・中根小
安島孝博

創立一四五年の歴史と伝統ある中根小学校は、国指定史跡の虎塚古墳など多くの歴史遺産に囲まれた児童数三三四名の学校です。一人一人の児童がなりたてたい自分になるための様々な力をつける学び合いの場を創出し、児童や教職員一人一人の笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



ひたちなか・三反田小
大内保広

明治六年に開校した歴史と伝統ある三反田小学校は、地域の熱い思いに支えられています。このような学校に勤務できる喜びと共に、職責の重さを実感しています。児童を主役とし、教職員一人一人の魅力が発揮できるように学校経営を行い、信頼される学校づくりを進めてまいります。



ひたちなか・枝川小
宮田 聡

創立一四五年の伝統を誇る自然豊かな枝川小学校に赴任し、喜びと責任の大きさを実感しています。明るい笑顔の子供たちと協力的な保護者や地域の方々を支えられ、やる気のある教職員とチーム枝川をつくり、「やればできる」のスローガンのもと、達成感や自己有用感を高める教育活動を推進してまいります。



ひたちなか・市毛小
橋本浩志

明るく素直な五五二名の子供たち、意欲に満ちた教職員、協力的な保護者や地域の方々を支えられながら、伝統ある市毛小学校で勤務できる喜びと職責の重さを感じています。いちげの名前を取った「一生懸命 力を合わせる 元気な市毛っ子」を合い言葉に魅力あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



ひたちなか・高野小
稲野邊絹子

「杉の子観察園」から聞こえてくる子供たちの元気な声。地域に守られ、協力的な保護者に支えられた本校に勤務できることに喜びを感じています。

「つながる のびゆく」をスローガンに、青空に向かってまっすぐ伸びる杉の子のような児童の成長を、全職員と共に支え、互いに伸びゆく学校を作ります。



ひたちなか・那珂湊二小
藤田絹子

地域の皆様にあいさつ、支えられた、歴史と伝統ある那珂湊第二小学校に勤務できる喜びとともに責任の重さを痛感しております。ダイヤモンドの原石のような素直で心優しい「浜っこ」が、志高く、幸せに人生を歩む力を育むために、全教職員が一丸となって取り組む学校づくりを推進してまいります。



ひたちなか・磯崎小
片岡幸恵

キラキラと輝く太平洋。歴史と伝統を感じる酒列磯前神社を眺めながら、毎日、清らかな気持ちで出勤しております。明るい笑顔であいさつし、真剣に授業に取り組み児童たち。充実した教育活動を目指し、声を掛け合い、一致団結して業務に励む職員たち。この仲間たちの笑顔が益々輝くよう尽力してまいります。



常陸大宮・大賀小
後藤孝行

久慈川の清流と緑豊かな環境に恵まれた本校は、創立一三二年を迎えます。七三名の児童たちは、大賀の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら、教職員一丸となって笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



常陸大宮・緒川小
埴 次男

自然豊かな環境、温かな思いで学校を支えてくれる保護者・地域の方々、そして、元気な子供たち。このような本校に赴任することができ、喜びとともに改めてその職責の重さを感じております。学校・家庭・地域の絆を大切に、子供たちの成長を教職員一丸となって支援してまいります。



常陸大宮・御前山中
古田土幸男

自分の母校である御前山中学校に勤務することになりました。素直な生徒や協力的な保護者・地域の方々に囲まれ、勤務できることを嬉しく思います。本校は今年度末に閉校するため、生徒や保護者・地域の方々にとって思い出深い一年になるよう、職員と共に取り組んでまいります。



那珂・額田小
大高伸一

本校は、創立一四五年という誇れる歴史と伝統、文化や自然そして魅力ある地域の人々に囲まれています。子供たちには、そのような素敵な環境の中で生活しているという自覚と誇りをもたせ、「額田」が人として成長する核となるよう、教職員や保護者・地域の方々と共に教育活動に取り組んでまいります。



小美玉・野田小
藤田康広

昭和二九年創立の伝統ある野田小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。また、地域や保護者の皆様の力強いご支援に感謝する毎日です。私たち教職員は、子供たちに寄り添う姿勢を忘れず、一人一人に積極的に関わり、「明日も学校へ行きたい」と誰もが思える学校を目指し、日々努めてまいります。



小美玉・下吉影小
萩野谷邦夫

創立一四二周年目を迎えた歴史と伝統のある下吉影小学校に勤務できることに感謝するとともに責任の重さを日々実感しております。「郷土に誇りを持ち、確かな学力を身に付け、心豊かで、心身ともにたくましい児童」の育成を目指し、全職員が一丸となった学校づくりに全力を尽くしてまいります。



小美玉・竹原小
大津 浩

温かい地域・保護者の方々。素直で明るい児童。そして、きれいな校舎。恵まれた環境の本校に赴任できたことに、感謝すると同時に、しっかりと児童たちを伸ばしていかなければならない責任の重さを感じています。「楽しく元気な学校づくり」を、保護者・地域・職員が一体となって目指します。



小美玉・堅倉小
稲田雅志

創立一四五年、歴史と伝統の堅倉小学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じております。

本校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域の皆様との連携を深め、全教職員の心を一つにして、「心を高める 人を高める 児童も教師も育つ学校」を合い言葉に全力で取り組んでいます。まいります。



小美玉・玉里北小
稲田義弘

歴史と伝統のある玉里北小学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。

素直で人懐っこい玉里北小の子どもたちが、未来に向けて夢と希望をもち、たくましく成長できるように、本校の強みである職員力を結集して、子供が主役の「あたたかい学校」づくりに全力で努めてまいります。



東茨城・青葉小
菊池浩之

青葉小学校は、四つの小学校が統合された開校四年目の学校です。五五六名の元気な児童、物心両面にご支援くださる保護者や地域の方々、そして熱心な教職員と共に、「地域コミュニティの中心となる学校」づくりを進めます。青葉小学校の歴史とよき伝統を一步一步、着実に積み上げてまいります。



東茨城・大洗南小
松島正人

大洗の青い海と空をのぞむ高台にある南小学校は、明るく素直な子供たちと笑顔あふれる教職員、そして協力的な保護者や地域の方々で囲まれています。

今そこに勤務できる喜びと責任の重さを感じながら「いきいきと」をキーワードにして、未来を拓く「大洗っ子」育成のために全力で取り組んでいきます。



東茨城・明光中
稲野辺秀久

先日、練習試合で本校を訪れていた他校の生徒が口々に「うわー、きれいな学校。」と話しているのを聞き、本校の取組である黙働清掃の成果だと実感しました。恵まれた環境と素直な生徒たちと共に、教職員一丸となって「学び合い」を核とした生徒の主体性を育む教育の実践に全力で取り組んでいきます。



東茨城・大洗南中
寺門剛美

眼下には青い海、遠くには真っ直ぐな地平線を臨む本校は、教科教室型の学校運営を開始して一九年目になります。恵まれた環境の中で、南中の三つの宝「時・礼・美」を柱に、生徒の自主・自立を目指しています。

学校に行きたい、毎日そう思える場所にするため、みんなで学校を創っていきます。



久慈・依上小
千ヶ崎高志

地域の方々に大切にされている伝統ある依上小学校に勤務させていただくこととなり、喜びとともに責任の重さを感じています。

ふるさと大子を愛し、賢く、豊かに、逞しく生きる子を育てるために、子供たちがいきいきと活動する学校づくりをめざして教職員と共に精一杯取り組んでまいります。



久慈・黒沢小
雨澤尚樹

若い時に育てていただき人情味あふれる大子の地に、二四年ぶりに再び勤務できることに感謝するとともに恩返しをしたい気持ちで一杯です。本校は一年後に統合を控えています。協力的で温かい保護者や地域の力を借り、全職員で一三人の子供たちに素敵な思い出をたくさんつくってあげたいと思います。



久慈・さはら小
海老根祐一

自然豊かな奥久慈茶の里「さはら小学校」に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しております。

素直で優しく元気な子供たち、教育に情熱と愛情をもった教職員、我らの学校意識で協力的な保護者・地域の方々、力を合わせて笑顔あふれる学校をつくってまいります。



久慈・生瀬小
原口次夫

自然豊かな生瀬小学校は、地域・保護者の方々の温かいご支援・ご協力のもと、子供たちがすくすくと育っています。本校に校長として勤務できますことに深く感謝申し上げます。

「元気に明るくあいさつをし、笑顔あふれる楽しい学校」を目指して、全職員一丸となって取り組んでまいります。

県北

日立市
常陸太田市
高萩市
北茨城市



久慈・生瀬中
仲野貴代恵

豊かな自然の中で育った明るく素直な生徒たちと二人一人を大切にする教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられた生瀬中に勤務できる喜びと職責の重さを日々感じております。

「夢・感動・笑顔」をスローガンに、生徒と教職員のよさを伸ばし、誰もが輝く学校づくり



日立・会瀬小
藤田 剛

創立八〇年、児童数三二七名の海が見える位置にある学校です。地域の方の学校に対する熱い思いにふれるたび、喜びと責任の重さを感じています。

「笑顔いっぱい、夢いっぱい」な子供たちの育成を目指して、「チーム会瀬」のリーダーとして、全力で取り組んでいく所存です。



日立・水木小
大江憲一郎

自宅よりわずか五分、地元の学校である水木小学校に勤務できること誠に嬉しく思います。また同時に創立一三〇年を迎える伝統と責任の重さに身が引き

縮まる思いです。これまで、育まれてきた保護者・地域の信頼を大切に「たくましく・かしこく・あたたかい」水木っ子の育成を全職員で目指します。



日立・金沢小
横倉要次

二九九名の明るく元気な子供たち、熱意あふれる教職員、協力的で温かい保護者や地域の方との出会いに感謝しつつ、職責の重さを実感しています。「すべては、子供たちのために」を胸

に、フットワーク、ネットワーク、チームワークを生かし、笑顔と感動あふれる学校づくりを真摯に進めてまいります。



日立・滑川小
大島靖子

これまでの教員生活で二校目の小学校、そして出身地日立での勤務、さらに、自分の居住する学区の学校ということで、喜びと緊張が入り交じった心境です。元気な子供たちと熱意あふれる教職員

そして、保護者、地域の皆様と共に笑顔があふれる、魅力ある学校づくりを努めていきたいと思えます。



日立・塙山小
鈴木美知子

西に多賀の山並み、東に太平洋を望む緑の高台にある塙山小学校。いきいきと学ぶ児童、やりがいをもって働く教職員、温かい保護者や地域と力を合わせ、楽しく明るい学校をつくりま

す。「校長の想いを伝え、相手の想いを聞き、任せる」を積み重ね、まず校長が楽しく明るく働くことで実現に至りたいと思えます。



日立・山部小
上野悦男

素直で元気な二九名の児童、使命感に燃える教職員、そしていつでも協力を惜しまない保護者や地域の方々。豊かな自然に囲まれた伝統ある山部小学校に勤務できる喜びとともに、その

職責の重さを実感しています。小規模校の利点を生かし、将来を担う人材の育成に向けて、全力で取り組んでいきます。



日立・坂本中
佐藤義明

創立七二年を迎えた伝統ある坂本中学校に赴任した喜びと責任の重さを感じております。

生徒・教職員・保護者が共有する「さかもと魂」(爽やかさ、感謝の心、目標をもつ、途中で諦めない)を基盤として、「生徒一人一人の夢や希望の実現」を目指す、「信頼される学校」づくりを努めてまいります。



日立・中里小中
森山秀一

市内唯一の小中一貫校である本校は、コミュニケーション科や地域の豊かな自然環境を活用した教育活動が大きな特色です。また、小規模特認校制度により、市内全域から通学できます。

子供たちの豊かな学びを実現するために、保護者や地域の声に耳を傾け、地域と共にある学校づくりを目指します。



高萩・東小
根本幸恵

爽やかな松風、潮の香り、響いてくる子供たちの元気な挨拶、窓を飾る鮮やかなステンドグラス、学校を想う地域の方々の話、赴任二か月余。見えて来たもの、なかなか見えぬもの…。ただはつきり感じたことは、

この東小を、母校と思い、微力ながら真摯に尽力していききたいという新たな決意です。



高萩・秋山中
田崎嘉子

豊かな自然に囲まれ、歴史と伝統ある秋山中学校で、明るく元気な子供たち、意欲溢れる教職員に出会えた喜びを感じるとともに、校長としての重責も実感しています。

「明るく健康で知性豊かな生徒の育成」を目指し、地域や保護者の方々と、生徒一人一人の夢の実現に向けて取り組んでまいります。



北茨城・関南小
菊地恵美子

関南小学校の一日の始まりは、元気な挨拶と主体的な委員会・係活動で活気に溢れています。「すべては子供たちのために」とチームで対応できる教職員集団、協力的な保護者や地域の方々に支えられ、感謝と職責の重さを感じています。「子供たち一人一人が主人公」となる学校づくりに全力で取り組みます。

運動会では、万国旗ではなく何十本もの大漁旗で賑わう歴史と伝統ある学校に赴任し、素直で元気な子供たちと過ごせることを大変うれしく思います。



北茨城・平潟小
齊藤一栄

港がある風光明媚な平潟の地で勤務できる喜びと校長としての職責の重さを感じています。外遊びの大好きな一七一名の子供たちのために、教職員一丸となって、保護者・地域の方々と一緒に歩んでいきます。そして、「笑顔であいさつ」をスローガンに「いきいき平潟っ子」をみんなで育てていく所存です。

本校は、「創造 敬愛 自立」の校訓のもと、施設一体型の小中一貫教育校として三年目を迎えました。一年生から九年生までの一六八名一人一人の夢を育み、児童生徒と保護者に、この関本小中学校で学ぶことができ、良かったと言ってもらえるよう教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



高萩・松岡小
滝 人司

創立一四五年の歴史と伝統のある松岡小学校。地域や保護者の皆様の温かいご支援をいただきながら、校長として勤務できる喜びと責任の重さを実感しています。児童一人一人にとって「明日もまた来なくなるあなた」を指し、全職員一丸となった学校づくりに取り組みます。



高萩・松岡中
大高 基

二〇年前勤務した松岡中学校に校長として勤務することになり、喜びと責任の重さを感じております。「一人一人が夢や目標をもち、輝きと感動と誇りのある松岡中学校」を目指し、目標達成に向け「気づき、考え、行動する」生徒の育成を、教員・保護者、地域と共に進めてまいります。



北茨城・大津小
萩谷正教

運動会では、万国旗ではなく何十本もの大漁旗で賑わう歴史と伝統ある学校に赴任し、素直で元気な子供たちと過ごせることを大変うれしく思います。意欲に満ちた教職員、協力的な地域の方々や保護者に支えられながら、全ての人たちの笑顔のために全力で取り組んでまいります。



北茨城・関本小中
小林宜弘

本校は、「創造 敬愛 自立」の校訓のもと、施設一体型の小中一貫教育校として三年目を迎えました。一年生から九年生までの一六八名一人一人の夢を育み、児童生徒と保護者に、この関本小中学校で学ぶことができ、良かったと言ってもらえるよう教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



鹿嶋・高松小
箕輪 直

明治七年創立の歴史と伝統のある高松小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを日々実感しています。今年から小中一貫校としてスタートしましたが「すべては高松っ子のために」を合言葉に、一人一人に寄り添いながら、職員一丸となって、未来を担う子供たちの育ちを支えてまいります。

県東

- 鹿嶋市
- 神栖市
- 銚田市
- 潮来市
- 行方市



鹿嶋・三笠小
大川行彦

素直で生き生きと活動する子供たち、温かく丁寧に対応する教職員、子供たちのために協力してくださる保護者や地域の方々：三笠小に赴任できた喜びとともに重責を感じています。

「チーム三笠」のコーディネーターとして、「みんなが主役」となる学校を目指し、全力で取り組んでいきたいと思えます。



神栖・深芝小
池田純子

深芝小学校は創立一四年目を迎えた児童数五九七名の新しい学校です。様々な考えを受け入れ先進的な教育を進める本校に勤務できますこと、感謝とともに責任の重さを感じております。「子供の夢を育み笑顔に出会えるあたたかい学校」づくりを目指し「チーム深芝」教職員一丸となり取り組んでまいります。



神栖・波崎西小
花ヶ崎貴代美

素直な子供たち、温かい保護者や地域の人達、このような波崎西小の校長であることを幸せに思うとともに、その責任の重さを日々実感しています。

子供たちに望む姿があるなら、それは私たちが示すべき姿でもあります。教師一人一人のよさがフルに発揮できる学校を目指し、日々努力してまいります。



神栖・波崎一中
山中秀裕

四月二日神栖市教育委員会分庁舎に於いて辞令を拝命し、神栖市立波崎第一中学校に赴任させて頂いた。校長として一人一人の職員を大切に、地域と融合しながら生徒たちには「学び甲斐」職員には「働き甲斐」保護者・地域には「頼り甲斐」をもっていた学校になるよう生徒の姿に反映してまいります。



鉾田・鉾田北中
嶋田知恵子

「知性を磨きともに支え合うたくましい生徒の育成」を教育目標とする本校は、小学校と敷地を同じくし、幼稚園も隣接する恵まれた環境の下、保護者や地域の方々に温かく支えられています。本校のよさや強みを生かし、生徒も教職員も共に成長を実感できる学校づくりに精一杯取り組んでまいります。

豊かな自然や文化と歴史が香る魅力に満ちた環境。温かく学校を支えてくれる地域や保護者。素直で明るい子供たち。この潮来小学校に勤務できますことに、大きな喜びと責任の重さを感じています。教職員・保護者・地域と一体となり、児童一人一人が輝く、自慢の学校づくりを進めてまいります。



潮来・潮来小
檜山 務

歴史と伝統のある延方小学校で、元気いっぱいの子供たちと熱意あふれる教職員と共に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。



潮来・大生原小
白田美佐代

明るく素直な子供たち、前向きで熱心な教職員、協力を惜しまず温かな支援を続けてくれる保護者や地域の皆様に囲まれて勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しています。一人一人が夢や希望をもち、その実現に向けて「主体的に学び行動する児童の育成」を目指して、全力で取り組んでまいります。

「みんな笑顔」をキーワードに、職員一同子供たちの夢の実現に向けて保護者や地域の方々と力を合わせ、全力で取り組んでまいります。



潮来・延方小
山田真奈美

歴史と伝統ある北浦中学校に赴任し、活力ある生徒たちと教職員、協力的で熱心な保護者や地域の方々に囲まれて勤務することに、喜びとともに職責の重さを感じております。「生徒一人一人のよさを認め、自信と夢をもたせる」という経営方針のもと、「改善を伝統にする学校」づくりを進めてまいります。



潮来・牛堀中
諸星通哉

富嶽三六景「常州牛堀」として有名な、水と緑の景観に囲まれた伝統ある牛堀中学校に勤務できる喜びとともに、その職責の重さを実感しております。

素直で明るい生徒たち、熱意あふれる教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の皆様と共に、笑顔あふれる生徒の育成に取り組んでまいります。



行方・北浦中
坂上彰弘

歴史と伝統ある北浦中学校に赴任し、活力ある生徒たちと教職員、協力的で熱心な保護者や地域の方々に囲まれて勤務することに、喜びとともに職責の重さを感じております。「生徒一人一人のよさを認め、自信と夢をもたせる」という経営方針のもと、「改善を伝統にする学校」づくりを進めてまいります。

県南

土浦市 稲敷市
 石岡市 かすみがうら市
 龍ヶ崎市 つくばみらい市
 取手市 稲敷郡
 牛久市 北相馬群
 つくば市
 守谷市



土浦・乙戸小 寺田英功

乙戸小学校は昭和五九年に開校した学校です。明るく素直な児童が多く、この素晴らしい学校に勤務できることを心から感謝しています。協力的で温かい保護者や、地域の方々と力を合わせながら、教育愛と使命感に燃える職員と一丸となって「明日もまた来なくなる学校づくり」を目指してまいります。



土浦・菅谷小 平田 豊

私にとって、二回目の勤務となる土浦市立菅谷小学校に赴任できたことを大変光栄に思っております。今後、支え合い・伝え合う児童の育成を目標に、教職員、保護者や地域の方々と共に、学校の課題を共有しながら、子供たちの笑顔あふれる学校づくりに取り組んでいきたいと思っております。



石岡・石岡小 倉本 明

創立一四五年を迎えた、歴史と伝統ある本校に勤務できたことに、喜びを感じるとともに身の引き締まる思いです。「未来に向かい、たくましく生きる児童を育む教育の推進」に向けて、「すべては子供のためにある」を合い言葉に全職員一丸となり精一杯努力してまいります。



石岡・三村小 田口雅偉

恋瀬川と天の川の合流する高台に校舎を構え、歴史と伝統ある学校に勤務することができ喜びと責任の重さを実感しています。「夢と活力にあふれた楽しい学校」の経営を目指し、教職員と地域が手を取り「チーム三村」のチームワークを生かし児童の育成に全力で取り組んでまいります。



石岡・杉並小 佐藤猛彦

歴史と郷の文化に出会える街石岡市。杉並小の近くには、古くは杉並木の陸前浜街道が通り、現在でも一里塚が残っています。子供たちとの出会いの日、元気な挨拶と笑顔に迎えられ、幸せと職責の重さを感じました。児童や職員にも幸せを感じてほしい。そんな学校を目指して職員と叡智を結集していきます。



石岡・恋瀬小 磯前利行

校歌の一番に「歌って 鍛えて伸びてゆく 恋瀬の子らは元気な子」とあります。始業式でいきいきと歌う児童の姿が、この歌詞にぴったりと重なりました。「自分の思いをのびのびと表現できる児童の育成」を教育目標に、全職員で「一人一人が輝く 笑顔があふれる学校」を目指してまいります。



石岡・吉生小 小松崎明美

創立三三六年の歴史と伝統。紫峰筑波を仰ぐ豊かな自然に恵まれた吉生小学校に勤務できますことに感謝するとともに、その職責の重さを痛感しております。小規模校の良さを生かし、保護者や地域の方々との連携を深めながら「誰もが夢をもち笑顔溢れる学校」づくりに全職員一丸となり取り組んでまいります。



石岡・小桜小 井上 勉

桜並木が連なる自然豊かな小桜地区は、七二年間学校と地域が一体となって、子供たちの成長を見守ってきました。こうした家庭・地域の思いに込められた「丸ごと受け止める」という教育理念のもと、子供たちのよさを引き出し、自己有用感を育む学校づくりに、全教職員で励んでまいります。



石岡・府中中 原部浩樹

創立七〇年の歴史と伝統のある石岡市立府中中学校に赴任し、恵まれた教育環境の中で勤務させていただいております。本年度は、生徒の学力向上と人間関係づくりに重点を置き、信頼される学校づくりを目指してまいります。全職員一丸となって努力していく所存です。どうぞよろしく願いたします。



龍ヶ崎・龍ヶ崎西小
村松美一

創立三十七年、統合二年目、温かく協力的な地域の方々を支えられた本校に勤務できることへの感謝の気持ちとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。「一人一人の豊かな学び」のために、保護者や地域の方々と共に、教職員の同僚性を大事にしながら、新しい学校づくりに取り組んでまいります。



龍ヶ崎・長山小
筑井喜久雄

創立三〇周年の節目を迎えた長山小学校に勤務できた喜びと責任の重さを感じながら日々勤務しております。

「あいさつ・えがお・元気」を合い言葉に、家庭や地域の方々と協働した「チーム長山」で「夢や希望をもち、夢中になって学ぶ子」を育てるため、全力を尽くしてまいります。



取手・山王小
久松正樹

小貝川のほとりに抱かれた創立一四五五年の歴史と伝統のある山王小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しております。校訓「清く 正しく たくましく」のもと、子供たちの笑顔あふれる楽しい学校づくりに取り組みます。また、保護者や地域の方々と手を携えて、安全・安心な学校づくりを目指します。



取手・六郷小
寺田純子

創立二四五五年の歴史を刻む地域に根ざした本校で、学校経営をさせていただけの喜びと職責の重さを実感する毎日です。

「みんなだいすき六郷小」を合い言葉に、本地区の宝である児童一〇〇名のために、教職員・専門スタッフと共にチームで児童・保護者・地域の期待に応える学校づくりに尽力いたします。



取手・久賀小
阿部 繁

明るく元気な子供たち。心温かい保護者や地域の方々。久賀小学校に勤務できますことに大きな喜びと責任の重さを感じております。「分からないことが分かるなり、できないことができるようになった」と子供たちが思える学校づくりに、全教職員で精一杯取り組んでまいります。



取手・戸頭中
森田哲夫

八年前に勤務していた戸頭中学校に、校長として再び勤務できることに喜びと責任の重さを感じ、身の引き締まる思いです。

「夢をもち、目標に向かって最後まで努力できる生徒の育成」を目標に、教職員一丸となって全校生徒二五二名全員の夢の実現に向けて精一杯取り組んでいく所存です。



牛久・向台小
小倉 聡

自然豊かな緑の中で、元気に登校してくる子供たちとのあいさつで、私の一日が始まります。「笑顔いっぱい 夢いっぱい 感謝いっぱい 向台の子」のスローガンのもと、「学校は子供が主役」を合い言葉に、地域社会との協働を通し、子供たちが未来に向かって、大きな夢を育める学校づくりに努めます。



つくば・九重小
岡田公文

歴史と伝統のある九重小学校に勤務できることに喜びを感じるとともに、職責の重さに身が引き締まる思いです。「命・あいさつ・授業」を大切にしたい三つの柱とし、全職員で力を合わせ、教育に熱心な保護者・地域の方々とともに、子供たちにとって楽しく生き生きと学べる学校づくりに取り組みます。

今年で四五五年目を迎える本校に赴任できた喜びと、職責の重さを日々感じながら勤務しております。つくば市では小中一貫教育を進めており、本校は、竹園学園として「竹園から世界にはばたく児童生徒の育成」を目標に掲げ、熱心な先生方と共に児童の育成に取り組んでまいります。



つくば・竹園東小
中山 猛

歴史と伝統のある島名小学校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。保護者や地域の方々の熱い思いに支えられ、子供たちは、明るく元気に生活しています。子供たち一人一人の可能性を引き出せるように、教職員一丸となって、感動のある学校づくりに取り組んでまいります。



つくば・島名小
木村晴美

感動のある学校づくりに取り組んでまいります。

感動のある学校づくりに取り組んでまいります。



つくば・前野小
飯島孝子

正門にそびえる二本の大きなクスノキが本校のシンボルです。素直で明るい子供たち、笑顔が光る熱心な教職員、温かい保護者や地域の皆様との出会いに感謝と責任を痛感しています。「子供たちの幸せな未来の礎となる教育」を信念に、全職員で力を合わせ、真摯に取り組んでまいりたいと思います。



つくば・谷田部南小
室町正雄

子供の笑顔と豊かな自然が谷田部南小学校の自慢です。全校児童は九三名、縦割り班活動が活発に行われていて、学年を超えてみな仲良しです。

職員は「子供の笑顔を増やす」を合言葉に、日々の教育活動に一生懸命取り組んでいます。私も子供たちのために、明るく元気に笑顔でがんばります。



つくば・竹園西小
菊地智之

J R 京都市などの建築物で知られる原広司氏設計の校舎。そこに集う国際色豊かな七八人の子供たち。筑波研究学園都市ならではの風景です。この素晴らしい環境の中で勤務できる喜びと重責を、日々感じております。「竹園から世界にはばたく児童生徒の育成」を目指し、努力していきたいと思えます。



つくば・荃崎三小
鮭川 誠

荃崎三小の朝は、正門で子供たちを笑顔で迎える通学班ボランティアの方々のさわやかなあいさつから始まります。本校学区には、このような学校教育に協力を惜しまない力強い地域があります。この力を最大限に生かし、未来を力強く生きることのできる人材の育成を目標に、職員と共に全力を尽くします。

本年四月に、一年生から九年生までがともに学ぶ新設の義務教育学校に赴任し、身が引き締まる思いです。明るく常に向上心をもって取り組む教職員や温かく見守ってくださる保護者や地域の方々、元気で何事にも真剣に取り組む子供たちに囲まれ勤務できることに感謝し、一杯職務に励んでまいります。



つくば・みどりの学園義務
毛利 靖

美しい自然に囲まれた創立一四四年の伝統ある高野小学校に赴任できた喜びとともに、職責の重さを感じております。「未来を生きるたくましい児童の育成」を職員一丸となって目指します。保護者、地域の方々と連携し、児童一人一人が、職員全員が、常に輝き、笑顔あふれる学校をつくりたいです。



つくば・大野小
山田仁巳

創立二二八年の歴史と伝統ある大野小学校に赴任できた喜びとともに、職任の重さを日々実感しております。

住みよい街ランキングNo.1に選ばれ「子育て王国」を目指す守谷市。みずき野地区の閑静な住宅街で地域と共に歩む郷州小に赴任し、喜びと重責に身が引き締まる思いです。「子供たちの笑顔と真剣なまなざし」を求め、熱心な教職員と協力的な保護者や地域と共に、思いやりのあふれる学校づくりに努めます。



守谷・高野小
木下悦郎

ネクタイを三本持っている。すっかり出番を失ったのは祖父の形見の夏用の物である。実はクールビズの世でも毎朝鏡に向かいネクタイを絞めるという儀式を秘密裏に続けている。子供たち職員地域への一日の使命を自省する神聖な一時である。ああ夢は大きく仕事は多い。ネクタイを結び直して向かふ朝。



守谷・郷州小
廣瀬 隆

開校五年目を迎えた地域と共にある新利根小学校。『郷土を愛し、地域に根ざした学校』『二人残らず、安心して学べる学校』『明るく楽しい学校』そんな学校づくりを、児童とのかかわりを大切にし、何事にも一生懸命な先生方と共に全力で取り組んでまいります。

開校五年目を迎えた地域と共にある新利根小学校。『郷土を愛し、地域に根ざした学校』『二人残らず、安心して学べる学校』『明るく楽しい学校』そんな学校づくりを、児童とのかかわりを大切にし、何事にも一生懸命な先生方と共に全力で取り組んでまいります。



守谷・松前台小
齋藤 寛

開校五年目を迎えた地域と共にある新利根小学校。『郷土を愛し、地域に根ざした学校』『二人残らず、安心して学べる学校』『明るく楽しい学校』そんな学校づくりを、児童とのかかわりを大切にし、何事にも一生懸命な先生方と共に全力で取り組んでまいります。



稲敷・新利根小
唯根正一

開校五年目を迎えた地域と共にある新利根小学校。『郷土を愛し、地域に根ざした学校』『二人残らず、安心して学べる学校』『明るく楽しい学校』そんな学校づくりを、児童とのかかわりを大切にし、何事にも一生懸命な先生方と共に全力で取り組んでまいります。

開校五年目を迎えた地域と共にある新利根小学校。『郷土を愛し、地域に根ざした学校』『二人残らず、安心して学べる学校』『明るく楽しい学校』そんな学校づくりを、児童とのかかわりを大切にし、何事にも一生懸命な先生方と共に全力で取り組んでまいります。



稲敷・阿波小
五十嵐淳

阿波小学校は霞ヶ浦の南東、豊かな緑に囲まれた稲敷市桜川の美しい台地にあります。地域の伝統文化「あなば囃子」が特色の地域に根ざした学校です。

時を守り、場を清め、礼を正す教育を実践し、地域と共に、子供の可能性を引き出す「元気で楽しい学校づくり」に全力投球で取り組む覚悟です。



稲敷・あずま北小
松島正典

穀倉地帯を見渡す高台に立つ歴史と伝統ある学校です。明るく元気な子供たち、意欲的な教職員、協力的な保護者・地域の方々に支えられ、本校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。

自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成を目指し、全力で取り組みます。



稲敷・桜川中
辻井浩一

恵まれた自然と明るく素直な子供たち。教育活動にとっても協力的な保護者や地域の方々。そして何事にも前向きな先生方。このような桜川中学校に勤務できることをうれしく思うとともに責任の重さを感じています。

前校長先生のモットーである「全力投球」を受継ぎ、「聴き上手」も心がけ、笑顔あふれる学校づくりに努めていきます。



稲敷・東中
木村 寿

創立三三年を迎える稲敷市立東中学校。明るく元気な二四六名の生徒と熱意ある教職員、協力的な保護者・地域に支えられ、この学校に勤務できる喜びと責任の重さに身の引き締まる思いです。

本校教育目標の「生徒の夢や願いや思いを支援する学校」に向かつて全力で取り組みます。



かすみがうら・志筑小
島田陽一

創立一四四年の歴史と伝統を誇るかすみがうら市立志筑小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。

明るく素直な子供たち、情熱溢れる教職員、協力的な保護者や地域の方々と共に「今日が楽しく、明日が待たれる学校」づくりに全力で取り組んでまいります。



かすみがうら・上佐谷小
會田照行

豊かな自然と温かな地域の支援に恵まれた上佐谷小学校。毎朝登校する子供たちとの元気なあいさつとハイタッチで一日が始まります。この明るく素直な「子供たちのために」を大前提に、「誰もが笑顔あふれる学校」を目指し、学校・家庭・地域が一丸となつて、学校づくりに全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・三島小
宮崎淳司

四方を水田に囲まれた緑豊かな地にある三島小学校に勤務できたことに感謝するとともに職責の重さを日々実感しております。本校の教育目標である「明るく楽しく元気な学校」を目指し教職員一丸となり、保護者や地域の皆様と共に、子供たち一人一人が輝けるよう精一杯努めてまいります。

美しい自然と笑顔あふれる子供たち、そして、地域の人々の温かさに迎えられる、この東小学校へ赴任できた事をとてもうれしく思います。



つくばみらい・東小
米川 豊

全教職員、保護者、地域が一丸となって「子供たちを生かした、子供たちのための教育活動の推進」のため全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・福岡小
山中敬夫

福岡堰の桜が名所の創立一四一年を迎える、地域と共に歩む福岡小学校に赴任できた喜びを日々実感しております。

「ありがとう」があふれる学校づくりを目指し、学校中に「ありがとう」の言葉があふれる、感謝の気持ちでいっぱいになる学校を創ることに全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・小絹中
出谷浩一

校長として、小絹中学校に勤務できることに喜びを感じるとともに、職責の重さを日々実感しています。

校訓「進んで学び 働き 鍛えよう」のもと、全教職員が一丸となって、生徒・保護者・教職員が「この小絹中学校でよかった。」と実感できる学校づくりを推進していきたいと思っております。



稲敷郡・木原小
田組順和

明るく素直な児童、熱意ある教職員、温かい保護者・地域の方に迎えられ、城郭の遺跡にたつ歴史と伝統のある本校に勤務できますことに喜びとやりがいを感じています。児童や教職員と夢を語り合い「信頼される学校 さらなる成長」を目指して、取り組んでまいります。ご指導よろしくお願いいたします。



稲敷郡・本郷小
前島 清

大きなケヤ木がシンボルの本郷小学校は、分離・統合が同時に行われました。児童数、学区、職員の顔ぶれなど多くのことが激変しました。まずは、この新しい学校生活が普通となるように、「馴染む」をキーワードに、児童が安心して生活できる学校づくりに、職員とともに一生懸命取り組んでまいります。



稲敷郡・君原小
小林信行

地域に支えられている本校に赴任し、職責の重さを実感しています。子供たち一人一人が輝き、教職員がやりがいを感じ、保護者の方々が安心できる学校を目指します。そのため地域・学校が一体となる最高の「チーム君原」を創っていきます。



稲敷郡・朝日中
久松 明

三三三名の生徒全員が大きな夢と小さな目標をもって生きていくことを願い、「朝日ドリーム」を合い言葉にしました。チーム学校と言われますが、バスケットボールのように、個々の職員が自分の特長を生かし、自分自身で判断しながらも、連動して職務に当たり、活力ある朝日中になりたいと思います。



北相馬・文小
伊藤純一

豊かな自然に恵まれ、創立一三〇年の歴史と伝統がある文小に勤務できることを大変嬉しく思っています。全職員が一丸となり、教育目標の「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を目指して、全力で取り組みます。そして、保護者・地域から信頼される学校づくりを目指します。



北相馬・文間小
戸張深雪

水と緑に囲まれた、自然豊かな文間小学校に赴任できた喜びと、職責の重さを日々実感しております。温かく協力的な保護者や地域の方々との連携を大切にしながら、活力ある教職員と共に「子供たち一人一人が輝き、笑顔あふれる学校づくり」に、職員一丸となって全力で取り組みます。

県西

- 古河市
- 結城市
- 下妻市
- 常総市
- 筑西市
- 坂東市
- 桜川市
- 結城郡
- 猿島郡



古河・古河五小
竹村 靖

本校はラムサール条約に登録された雄大な渡良瀬遊水池を望む茨城県の最西端の位置し、自然と歴史に包まれた学校です。「明るく素直な五小の子」を目標に、保護者や地域の皆さんと連携させていただきながら、一五名の児童が、そして教職員が笑顔になれる学校を目指して取り組んでまいります。



古河・古河六小
大里充孝

歴史と伝統ある古河第二小学校に着任し、その責任の重さに身の引き締まる思いです。素直な子供たち四四〇名の子供たちのために、子供をこよなく愛する教職員、協力を惜しまない保護者・地域の皆様とともに歩む学校経営。子供一人一人が輝くために全力で取り組んでまいります。

きれいな校舎と元気がいっぱいの子供たち。やる気に満ち溢れた教職員。心温かな保護者と地域の方々。環境の整った古河六小に校長として着任し、感謝とともに責任の重さを痛感しています。子供が主役となった温かい学校づくりを進め「よく考える子」「仲よくする子」「たくましい子」の育成に努めてまいります。



古河・釈迦小
小沼 剛

創立一四五年を迎える歴史と伝統のある釈迦小学校に勤務できる喜びとその職責の重さを日々実感しております。

全校児童一〇九名、小規模校としてのよさや強みを生かし、校長として全職員一丸となり、保護者や地域と共に、安全で安心な学校づくりに全力で取り組んでまいります。



古河・上辺見小
栃木 円

新採として教壇に立ち、創立一三三年目を迎える歴史と伝統ある上辺見小学校に再び勤務できることに、大きな喜びと職責の重さを感じております。

「夢をはぐくむ 子供が主役の楽しい学校」を掲げ、一人一人の児童がきらり輝くことのできる学校づくりを目指し、全力で取り組んでまいります。



古河・西牛谷小
斎藤 紀子

素直で何事にも一生懸命頑張る子供たち、その子供たちにたっぷりの愛情を注いでくれる教職員、そして温かく協力的な保護者・地域。西牛谷小学校に赴任し、大きな喜びとともに責任の重さを感じています。「できた」「わかった」の笑顔があふれる学校づくりの実現に向け、全力で取り組んでまいります。

「夢をはぐくむ 子供が主役の楽しい学校」を掲げ、一人一人の児童がきらり輝くことのできる学校づくりを目指し、全力で取り組んでまいります。



古河・中央小
沼田 傳

明るく元気な四八〇名の児童と愛情をもって児童に向き合う教職員、熱心に応援してください。保護者や地域の方々、この素晴らしい出会いを大切にしていきたいと思えます。「夢をはぐくみ、知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童の育成」を目指し、「つよい子になろう」を合い言葉に取り組んでいきます。

「夢をはぐくむ 子供が主役の楽しい学校」を掲げ、一人一人の児童がきらり輝くことのできる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



古河・八俣小
荒木 良美

四一五名の明るく素直な「またの子」、創立一三四年の歴史と伝統のある「八俣小学校」、そして「保護者及び地域」を「好きになる」。この言葉を合い言葉に、全職員が一丸となって、児童一人一人が自他のよさに気づき、活かし、共に高め合うことのできる学校づくりに全力で取り組んでまいります。

「夢をはぐくむ 子供が主役の楽しい学校」を掲げ、一人一人の児童がきらり輝くことのできる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



古河・下大野小
矢嶋 正之

♪明るく強く伸びていくわれら花の子光の子♪下大野小学校には、きれいな花と子供たちのキラキラした笑顔があふれています。保護者や地域の皆様から

の温かなご支援にも日々感謝しています。いつまでも子供たちの成長を地域と共に喜び合える学校であるように、職員一丸となって頑張ります。



古河・駒羽根小
須藤 恵美

子供らしく表情豊かな子供たちと、協力的で温かな保護者と地域。この地で勤務できる喜びを日々感じていきます。

「学ぶ 鍛える 伸びあがる」という校歌の一節のように、児童一人一人がすすくと成長し笑顔あふれる学校を、そして信頼と活力ある学校を目指して力を尽くしてまいります。



古河・下辺見小
桑名 豊

明るく素直な子供たちと、子供たちの成長に惜しみない支援をいただける保護者や地域の方々、そして笑顔で意欲あふれる教職員とともに勤務できます

ことに、喜びと責任の重さを感じています。「全ては子供たちのために」をモットーに、生き生きと学べる学校づくりに取り組んでまいります。



古河・大和田小
野尻 勝

素直で明るい子供たち、やる気に溢れた職員、温かく協力的な保護者・地域の方々。プロブレミング教育では、先進的な取り組みを実践している本校に勤務できる喜びと責任の重さを痛感しております。

子供たちの夢が叶えられるよう、一人一人の個性を伸ばす教育に取り組んでまいります。



古河・名崎小
石上 政人

創立一四三年の歴史と伝統を誇り、地域に愛され、支えられている名崎小学校に赴任し、喜びとともに職責の重さを実感しています。児童一人一人にとって、楽しく魅力のある学校となるよう職員一同、保護者・地域の皆様と共に「チーム名崎」として全力で教育活動に取り組んでまいります。

「夢をはぐくむ 子供が主役の楽しい学校」を掲げ、一人一人の児童がきらり輝くことのできる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



古河・仁連小
中根伸一

豊かな自然に恵まれた仁連小学校に赴任し、元氣いっぱい児童と活力に満ちた教職員との出会いに心から幸せを感じています。また、保護者、地域の皆様の絶大なる支えを肌で感じ、大変感謝しております。児童一人一人の笑顔があふれる学校づくりのために、教職員一丸となって取り組んでいく所存です。



古河・三和中
岡崎孝夫

行事や集会で堂々と大きな声で校歌を歌える生徒。元氣な挨拶ができる生徒。こんな活気溢れる生徒たちと一緒に過ごすことに喜びを感じています。「学びあい・認め合い・高めあい」の合言葉で「真の自立を目指した人間性の育成」を目指し、教職員一丸となり魅力ある学校づくりに尽力していきます。



結城・城南小
柴山勝利

城南小学校は、新採で六年間勤務した学校で、懐かしさとうれしさでいっぱいです。児童数六四二人の笑顔のために、全職員が一丸となり、地域や保護者の方々と協力して、合言葉「じょうぶな心と体」なんにでもチャレンジ」を実現できるように、全力で取り組んでいきたいと思ひます。



結城・上山川小
廣澤淳子

明治六年創立の歴史と伝統を誇る上山川小学校に赴任し、その喜びと共に、責任の重さを実感しています。本校の児童は、保護者や地域に見守られ、素直で思いやりがあります。前向きで「協働」の意識高い職員と共に、児童のことを第一に考え、地域と共にある、活力ある学校を目指します。



結城・絹川小
佐藤悦雄

本校は、鬼怒川のほとりに位置し、朝陽に映える筑波山を望む自然豊かな学校です。保護者や地域の協力のもと、元氣な子供たちや明るい職員と共に過ごせる喜びを日々感じています。「人を大切にする学校づくり」を目指し、「チーム絹川」を合い言葉に、子供たちの笑顔のために全力を尽くす所存です。



結城・結城東中
塚原絹江

本校の合い言葉は、「あいさつで心をみがき 清掃で学校をみがき 学び合いで考え方をみがく」です。生徒も教職員もこのことを常に意識して生活しています。教職員のチームワークをさらによくし、子供たちのためにそして教職員のために、できること、必要なことに全力で取り組んでいきます。



下妻・豊加美小
荒井弘勝

新任校長として、一三〇年の伝統ある小学校に赴任した。地域や諸先輩方が創り上げた学校文化の素晴らしさに身の引き締まる思いである。郷土に誇りをもつて学ぶ子供たちを育てるべく、教育活動に邁進する覚悟である。



下妻・高道祖小
荒木久美子

素直で明るい子供たち、誠実に仕事に取り組む教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々を支えられ、歴史と伝統ある高道祖小学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。子供たち一人一人が元氣いっぱい笑顔で学校生活を送れるよう、教職員一丸となり教育活動に取り組んでまいります。



常総・五箇小
三谷定幸

小貝川のほとりの緑豊かな自然の中、地域に温かく支えられている五箇小学校に赴任し喜びと責任の重さを感じています。「心身ともに健康でたくましく自ら学ぶ子」の育成を目指し、「自主性」、「異学年交流」を柱に、五箇小全職員の「ほつとな絆」で、力を合わせ取り組んでまいります。



常総・三妻小
永田孝男

明るく素直な一九四名の子供たち。温かく協力的な保護者や地域の皆様。歴史と伝統のある三妻小学校に校長として勤務できることに、大きな喜びと責任の重さを感じています。子供たち一人一人を大切に「今日が楽しく明日が楽しみな学校」を目指し、教職員が一丸となって取り組んでまいります。



常総・豊岡小
野上郁男

「おはようございます。」

毎朝、校門近くで響き渡る、本校の子供たち、登校中の中学生、そして保護者・地域の方々の明るい声です。この元気な子供たちと温かい地域の方々に囲まれた学校に赴任できた喜びでいっぱいです。「毎日行きたくなる学校」づくりに全職員一つになり全力で取り組んでまいります。



常総・玉小
五十嵐信治

創立二二九年目の伝統ある本校。今年には水害からの復興に向け、新たなチャレンジが始まる年となります。「我慢・助け合い・感謝」の体験を「思いやりの心」につなぎ、「ほっとな絆」で学校・家庭・地域が一つの『玉』になれるよう職員と共に歩んでいきたいと思えます。



筑西・五所小
塩田 弘

五所小学校は、創立二一四年を迎える歴史と伝統のある学校です。素直な子供たち、協力的な保護者や地域の方々、そして、意欲的な教職員の姿に職員の重さを痛感しています。「自ら学び、よく考え、心身ともにたくましい五所の子の育成」を目指し、笑顔あふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



筑西・河間小
石塚哲也

地域の方々の夢を乗せた伝統ある筑西市立河間小学校。校長としての凡事徹底は、「笑顔でありさつ。」笑顔の力で、子供たち・保護者の皆様・地域の方々・職員が一つとなって進められる学校づくりを目指します。「動こう河間！」は本校の合い言葉。他を思い、自ら学ぶたくましい児童の育成に努めます。



筑西・嘉田生崎小
寺田明彦

創立二四五年の歴史ある本校に赴任できた喜びとともに、責任の重さを感じております。一二名の素直な子供たち、協力的で温かい保護者や地域の方々、熱心で団結力のある教職員。



筑西・鳥羽小
富山秀男

筑波山を望む、歴史と伝統のある本校に勤務できることの喜びと職員の重さを感じております。素直で明るい七五名の子供たち一人一人を大切にし「あいさつが響き合う 笑顔あふれる鳥羽小学校」を目指して、保護者や地域の皆様と共に教職員一丸となって取り組みます。



筑西・上野小
武田孝彦

明るく素直な一〇四名の子供たち、誠実で力のある教職員、協力的な保護者・地域の方々に囲まれた上野小学校に赴任したことに喜びと責任の重さを感じています。「青い空 輝く筑波 夢 上野小」のスローガンのもと、児童一人一人が輝く学校を目指し、教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



筑西・下館北中
大久保和一

歴史と伝統ある下館北中学校は、春には、筑波山を望みながら五行川のほとりを桜と菜の花の道が続きます。校訓「自己を高めよ」のもと、協力的で温かな保護者・地域の支援を受け、生徒一人一人が、伸び伸びと成長しています。生徒の夢と目標の実現に向け、教職員一同「チーム北中」として頑張ります。



筑西・関城中
信田和己

梨の花が咲く、緑濃き里山。自然豊かな関城の地に、地域に愛される関城中学校があります。生徒と教師、保護者や地域と学校との信頼関係づくりを基盤に、それぞれのよさが響きこたまする学校で、自分たちの夢の実現や可能性を信じ、頑張り続ける生徒を育てていきます。「よき師 よき友 夢多し」



坂東・七重小
森 浩朗

純朴でまじめな児童、授業を大切に磨き合う教師、協力的で温かな保護者・地域住民に支えられた伝統ある七重小学校に就任し、職員の重さに身が引き締まる思いです。「笑顔があふれ、幸せを感じるみんなの学校」をスローガンに、児童一人一人のよさを認め、生かして、輝かせ教育を推進してまいります。



坂東・弓馬田小
細川嘉彦

素直な子供たち、子供たちの個性を大切にする教職員、学校や子供たちのために労を惜しまない保護者や地域の方々に支えられ、感謝とともに校長としての職責の重さを日々実感しています。「笑顔あふれる」をキーワードに、子供たちの自己存在感・自己有用感を高めるために全力で取り組んでいきます。



坂東・長須小
横田 裕

創立一四五年目を迎えた本校は、地域と共に歴史を重ねてきており、その責任の重さに身の引き締まる思いです。その長須地区についての郷土学習を特色ある教育活動の一つとし、児童一人一人が自ら進んで取り組み、活動する楽しさを味わうことができるよう、教職員と一丸となり全力で取り組んでまいります。



坂東・生子菅小
針替直哉

創立一二九年の歴史と伝統と、そして今年度一六四名の児童を預かり喜びと責任の重さを痛感しています。本校は、学校教育目標「清く正しく健やかな児童の育成」の具現化のため、知徳体のバランスのとれた児童の育成に教職員が一丸となり全力で取り組む学校づくりを目指してまいります。



坂東・南中
鶴見徹也

昨年度創立六〇周年を迎え、新たなスタートの年となった坂東南中学校に赴任できたことに喜びを感じています。豊かな自然環境の中で、温かく協力的な保護者・地域との連携・協働を基盤に、魅力ある学校づくりを推進し「夢をもち、主体的に活動し豊かに表現できる生徒」の育成に向けて全教職員一丸となって進んでまいります。



桜川・岩瀬小
小林尚志

美しい自然に囲まれ、歴史と伝統のある岩瀬小学校に勤務できることの喜びと、職責の重さを痛感しております。「自ら学び 心豊かな たくましい児童の育成」を目指します。教職員一丸となり、保護者・地域の協力のもと、安全安心で、楽しい学校づくりに邁進してまいります。



桜川・桜川中
萩野谷匡

創立六〇周年という節目の年に、本校に赴任できた喜びと職責の重さを日々感じながら勤務しております。明るく素直な一三六名の生徒のために、学校と家庭・地域の信頼関係を基盤として、「一人一人のよさを認め伸ばし、自己有用感を育む教育」の実現に向けて、全力で取り組む所存です。



結城郡・下結城小
佐々木英治

明るく活気に満ちた学校です。保護者や地域の協力による校外学習や地域の方々を講師として招く等の豊かな教育活動が日々展開されています。「学校・家庭・地域・教育行政」の協働を継続させ、「地域とともにある学校づくり」を推進し、一人一人のよさが輝く「ブライタップ下結城学区」を目指します。



結城郡・川西小
宇梶京子

♪鬼怒のきよらな 川の西 学びの里の 誇りも高く いそしみ励み すこやかに 理想の道を 進み行く われらの 川西小学校♪ この校歌のような一七名の児童(いな川西)の健やかな成長のために、「チーム川西」のリーダーとして、自己の職責を全うしてまいります。



結城郡・八千代東中
中島洋子

歴史と伝統ある東中学校で、明るく素直な生徒たち、熱心に生徒たちと向き合う教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に支えられて勤務できるとに、喜びと校長としての職責の重さを感じています。校訓「質実剛毅」を胸に、生徒一人一人を大切にしたい学校づくりに、全力で取り組みます。



猿島郡・五霞東小
倉橋孝一

五霞東っ子たちに出会い、頑張る姿をいろいろな場面で見ることができ、喜びや感動を与えてもらっています。今日も一人一人の活躍の様子に顔がほころびます。学校教育目標の「夢に向かって、笑顔で取り組む学校」を目指して、教職員一丸となりて子供たちのために精一杯取り組んでまいります。



猿島郡・長田小
野口 修

明るく開放的な校舎、元気で素直な二六二名の子供たち、そして、協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、伝統ある長田小学校で勤務できる喜びとその責任の重さを感じています。

教職員みんなで遊びや体験活動によるふれ合いと読書を大切にし、魅力ある学校づくりを目指して取り組んでいきます。



猿島郡・森戸小
辻野博勝

素朴で素直な子供たち、情熱的に取り組む教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられ歴史と伝統ある森戸小学校に勤務できる喜びとともに、職責の重さを感じています。「一人一人が輝き、ともに伸びゆく学校」を合い言葉に、児童の限らない可能性を引き出せるよう、職員一丸となって努力していきます。

再任会員名簿

No.	郡市名	学校名	氏名
17	土浦市	土浦二小	丸山 洋子
16	行方市	下高津小	栗栖 宣博
15	行方市	玉造中	小野口吉政
14	鉾田市	大洋中	櫻井 邦彦
13	鉾田市	鉾田南中	安原 優
12	鉾田市	鉾田小	狩野 秀彦
11	北茨城市	中郷中	花園 浩
10	北茨城市	華川小	松下 英俊
9	常陸太田市	瑞竜中	和田 清典
8	常陸太田市	太田小	西連寺 有
7	日立市	多賀中	内山 信弘
6	那珂郡	東海中	岡崎 光也
5	常陸大宮市	山方中	菊池 彰
4	ひたちなか市	東石川小	関口 拓生
3	笠間市	北川根小	磯野 宏入
2	笠間市	笠間小	石田 進
1	水戸市	第三中	小野瀬繁子



No.	郡市名	学校名	氏名
24	猿島郡	境一中	金久保敬二
23	桜川市	岩瀬西中	稲川 善成
22	筑西市	大田小	田中 章公
21	常総市	水海道小	服部 仁一
20	結城市	結城中	渡辺 昭登
19	かすみがうら市	霞ヶ浦中	小林 広
18	龍ヶ崎市	馴柴小	大古 輝夫

(敬称略)

平成三〇年度
(二財)茨城県教育センター
(教育プラザいばらき内) 職員

- 平成三〇年度 学校長会役員
- 会長 伴 敦夫(永・第一中)
 - 副会長 鬼澤 真寿(永・三の丸小)
 - 副会長 鈴木 洋一(日・助川中)
 - 副会長 豊田 昌幸(鉾・鉾田北小)
 - 副会長 遠藤 知昭(つ・吾妻小)
 - 副会長 鈴木 悟(妻・下妻中)
 - 副会長 鈴木 浩幸(永・石川小)
 - 副会長 佐藤 義明(日・坂本中)
 - 副会長 大崎 一寿(潮・潮来中)
 - 副会長 豊崎 義人(糸下・稲葉小)
 - 副会長 渡辺 信之(坂・神大妻小)

- 理事長 砂川 洋一
- 副理事長 東小川昌夫
- 事務局長 環 哲男
- 主幹(校長会担当) 木村 明弘
- 主幹(研究会担当) 磯崎 則男
- 主幹(教育センター担当) 石島久美子
- 主幹(校長会・研究会担当) 砂押 有香

おわび

五月一〇日に開催した第七二回茨城県学校長会総会並びに研修会の「新会員紹介」で、ひたちなか市立那珂珂湊二小 藤田絹子校長先生を、誤って再任会員名簿に記載してしまつたため、ご紹介することができないでまいりました。
大変申し訳ありませんでした。お詫びして、訂正させていただきます。
今年度の新会員は一五六名、再任会員は二四名になります。

編集後記

一五六名の新会員の皆様をお迎えして、三〇年度の教育活動が順調にスタートしています。
広報委員会ではお蔭さまで今年度の第一号を発行することができました。新指導要領の完全実施に向けての取組や、働き方改革に伴う業務の効率化など様々な対応に向かう皆様の学校経営の一助となる誌面作りを務めてまいります。
年度初めのご多用の中、原稿をお寄せいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。